

⑬ 3年起業創造科・企画科『地域との協働による高等学校教育改革推進事業報告会』

【開催日】 令和3年10月28日（木）

【開催目的】 事業最終年度となる「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（文科省指定）の取り組みについて、コンソーシアム関係者等へ事業経過及び成果を報告する。そして事業の目的である地域協働による地域人材育成の重要性を伝える。

【科目】 起業創造科「課題研究」（3単位）・企画科「課題研究」（4単位）

【報告会内容】 ○第1部（学校設定科目、課題研究による地域とつながる授業報告）

◆起業創造科会場：企画科代表生徒が起業創造科の生徒に説明

- ①地域協働事業説明・地域コーディネーター講話
- ②企画科学科説明
- ③授業説明（学校設定科目グローバルビジネス・課題研究）
- ④私たちが創る京都の未来ワーク（起業創造科生徒）
- ⑤質疑応答（来場者から企画科生徒に対して質問）

◆企画科会場：起業創造科代表生徒が企画科の生徒に説明

- ①起業創造科学科説明
- ②授業説明（学校設定科目起業マネジメント・課題研究）
- ③地域協働事業説明・地域コーディネーター講話
- ④私たちが創る京都の未来ワーク（企画科生徒）
- ⑤質疑応答（来場者から起業創造科の生徒に対して質問）

○第2部（パネルディスカッション）

◆起業創造科・企画科2会場：学科長とパネリストによるスピーチ

- ①自己紹介
- ②学科コンセプト
- ③学科コンセプトを受けてパネリストよりスピーチ
- ④創りたい未来社会の共有
- ⑤仕事のおもしろさ、働きがい
- ⑥激変する社会を生きる
- ⑦未来への挑戦
- ⑧高校生に期待すること
- ⑨代表生徒よりスピーチ
- ⑩学科長より生徒へメッセージ

【パネリスト・ゲスト来場者】

○パネリスト

京信人材バンク 矢野 凌祐 様、新田 廉 様
あしなが育英会京都連絡事務所 原子 壮太 様
有限会社ワックジャパン 小川 美知 様
アシックス株式会社 荒井 孝雄 様

○ゲスト来場者

京都府教育委員会 村田 勝彦 様、永井 宏和 様、
小西 良尚 様、谷口 智史 様、
小野 茉佑子 様
学校運営協議委員 中嶋 直己 様、和田 登美子 様、
濱田 いづみ 様
コンソーシアム会議委員 早崎 真魚 様、押領司 哲也 様、
地域協働学習実施支援員 三木 俊和 様
学科連携企業 伊藤 公平 様、千原 アトム 様
学科連携大学 京都文教大学 向井 幹昌 様、江崎 洋子 様
京都光華女子大学 高野 拓樹 様
大阪夕陽丘短期大学 西元 義貴 様

【生徒報告書】～生徒の声～

○所属学科の学び、学科再発見

【起業創造科】

- ・地域課題をじぶんごと化し向き合い、解決するための新しい仕組みを創造する事で、地域をより良くするためにはどうすればよいのかを考える学科。
- ・興味がわいたことに対して、とことん探究し、いろいろなことに失敗を恐れず挑戦することの大切さを学べる。
- ・地域の課題をビジネスのビジネス視点から解決するために、その課題（問い）を自分たちの手でつかみ、答えのない問いと戦うのがこの学科の学びの特徴です。
- ・地域課題に触れ、自分自身で考え、解決のアイデアを発表することで、たくさんの人とつながることができ、そのつながりから生まれる新しい価値観に気づける学科です。
- ・答えのない問いに何度も出会い、ビジネスに関する知識の大切さを実感した。ビジネスは本当に奥が深い。まだまだ知らないことが多いのもっと深く学びたいと気づける学科。



【企画科】

- ・世界のことに興味を持つことで新しい考え方が生まれ、相手の立場になって物事を考えることの大切さを学べる学科。
- ・社会課題に対して当事者意識を持ち、じぶんごと化することから、さらに仲間を巻き込んでみんなごと化へと変えることで、自分自身が新しい考え方や多様な価値観に気づける学びをする学科です。
- ・京都の魅力を世界に発信するだけではなく、世界のあらゆる諸課題、特に発展途上国の社会的課題を解決するための企画力が学べる。世界について考えることで、自分の価値観が変わり、視野が広がる。みんなを巻き込んで企画を考えることができる。
- ・観光ビジネスが学べるだけでなく、発展途上国の課題解決や海外の高校生との商品開発を通じて、企画力を身につけることができる学科です。



○他学科に対しての新しい気づき、他学科理解

【起業創造科から企画科へ】

- ・企画科では世界を知り理解を深め、高校生時代に世界に目を向け視野を広げる授業があり驚きました。今は、グローバル化が進行し海外との結びつきが強くなっているのでこのような授業があるのは社会に出た時の役立つと思いました。また、起業創造科では学ばない「マーケティング」「メディアデザイン」の授業で商品が売れる仕組みやデザインなども勉強でき、消費者目線から考える授業があることを知りすごいと思いました。
- ・2つの学科では全く異なることを学んでいると思っていたけれど課題解決型授業の実施や未来を考えて次世代にどのようなにつなげていくかを考える授業が共通の学びなのだとして企画科のことが身近に感じられました。

【企画科から起業創造科へ】

- ・起業創造科は、地域の企業様とのつながりが強くお話を聞いたり訪問したりする機会がたくさんある。実際に地域の商店街に足を運んでその現状を自分たちの目で見て感じたり、体験できる授業の中でよりリアルな地域課題を知り、地域の未来を考えることができたりする学科だと理解できた。
- ・起業創造科は、会計を専門的に学んでおられるので企画科が企画、提案したアイデアをお金の流れや利益などの視点が加わった企画、提案にしてくれる学科だと思った。
- ・それぞれの学科に課題研究があり9つのゼミが設置されています。そのゼミには学科の学びの要素が入っていて、同じ名前のゼミでも学ぶ中身はお互いに異なっているので、学科の違いや特性がより明確になりました。

○私が創りたい未来社会

【起業創造科】

- ・私は誰もが自分らしく生きていけるような未来社会を創りたいです。3年間学んだことで、自分らしく生きることが日々の生活の幸せや仕事のやりがいにもつながると知ったからです。この社会を実現する為にも多くの異なるコミュニティに参加して、様々な人達とつながることを実践していきたいです。理想の未来社会を自らで創りたいです。
- ・どんなことにでも興味を持ち現状に満足せず、変えていくために挑戦することができる社会にしたい。これからの未来を創っていくのは自分達だし、失敗しても再挑戦ができる環境が大切だと思う。自分自身が挑戦し続ける姿勢を示し続けた

【企画科】

- ・知らない国に対して関心を持たないで終わらず、まずは一人ひとりが関心を持つことが大切だと考えます。現状を知り、見て見ぬふりをしない社会になって欲しいです。
- ・私が創りたい未来社会は、他人の価値観や尺度に振り回されず一人ひとりが自分の考えを持ち、発言できる多様性のある社会です。このような社会が実現できれば、誰もが自由に世界を良くするアイデアを出し合えると思います。
- ・結果よりもその過程を大切にしたいです。過程を大切にすることで人々もより意欲的になるはずで、それが大きな失敗であっても過程の中で

い。

- ・一人でできることは小さく社会を動かす力にはならない。しかし、少しずつ共感者、応援者の力を増やすことができれば、個人の力も10倍、100倍になると思う。他者と共有、共感、協力しやすい社会を創っていきたい。
- ・私は起業創造科に入り、地域に携わる学習を行いました。今日のパネルディスカッションの京信人材バンクの企業理念を聞き、私も地域社会に携わる仕事がしたいという気持ちが強くなりました。新しい世代に京都の歴史や文化をつなげていく環境づくりをしていきたいです。京都のより良い所や魅力をつくる場づくりがしたいです。

良かった所を認めることで失敗を成功の材料として再び動き出す原動力になるはず。そんな未来社会にしたいです。

- ・私は自分の中に色々な”ものさし”を持った人達であふれる社会を創りたいと思います。人の”ものさし”を認め理解することで視野が広くなり、否定的な意見ばかり言うのではなく前向きに考えていくことができる社会になると考えるからです。



○激変する社会の中で私の挑戦

【起業創造科】

- ・コロナ禍によりマスク越しに相手の顔を直接見ることもできない社会を経験しました。変化は、このような目に見える所だけではなく見えない所で余波のような物があるのではないかと感じました。もし、私とその余波を感じ取れるようになった時に新しい社会に対応できると思います。今、私を感じ取れている変化は「デジタル化社会」です。このデジタル化社会の余波を敏感に感じ取れる人材になるためにこれからも学習を続けていきたいです。
- ・同じ場所に立ち止まっていたはこの社会の変化に置いて行かれるので、自分自身が変わるためにも多くに知識をインプットする。全く知らなかったことや少し知っていることでも深い知識を吸収していく。そして、身につけた知識を組み合わせる新しいアイデアに変えてアウトプットしていく。インプット、アウトプット

【企画科】

- ・変化の時代だからこそ多くの経験を積んでいきたいです。得意でないこと、嫌いなこと、取り組んだことがないことでもやってみたら新しい発見があるかもしれません。人間関係も同じことがいえるかもしれません。このことを何時も頭に入れてながらこれからの社会でいろいろな経験がしたいです。
- ・常に考え動き続けます。そのためにたくさん知識を身につけます。手に入れた情報を比較、検討し最適解を見つけることができるようになります。そして、様々な人と関わる行動力が必要です。他者の価値観を理解することは自らの考え方を考えるだけでなく実践に移すことで新しい力を身につけられます。そのような力を持った人間でありたいです。
- ・激変するということは、プラスになることもマイナスになることもあると思いますが、それに対応してカタチや方法を変

トの繰り返しが私の挑戦です。

- ・時代の変化と共に価値観や働き方もどんどん変化しています。このような時代の中で色々なことに挑戦し、既存の価値観や働き方、過去の当たり前を変えていくような人になりたい。
- ・今は当たり前で価値のないものが、社会の変化の中で価値あるものへと変わるかもしれない。今は、何もできない私でも激変する社会の中で何か価値を生み出せるかもしれない。新しい価値を生み出せるような人になりたい。

えていく適応能力が必要です。私もどんな場面でも従来のカタチや方法にとらわれることのない対応ができ、何が必要かを見極められるようになりたいです。

- ・この変化の中で日本がどのような国であり続けるのか？どのような魅力を発揮していくのか？グローバル化の中で、海外から様々なものを取り入れたと同じように文化、習慣、価値観なども入ってきた。日本にもともとあったものが何で、どのように守り、どのように新しいものと融合させ形を変えていくのか？このことを明確にしていくことがこれからの挑戦だと思います。

○学科の学びを生かして、「住んでよし、訪れてよし」の京都を創るために私ができること

【起業創造科】

- ・高校生にしかない視点、高校生だから見えてくる視界で社会問題を考え、それを大人に発信していくことがスタートだと思います。いくら高校生が考えたところで、高校生だけでできることは限られています。そのために周りの大人を巻き込んで高校生と大人で私達の住む京都の未来を一緒に創っていければと思います。高校生にしかできないことを大切にしていきたいです。
- ・起業創造科の授業で、社会問題をじぶんごと化することの大切さを学びました。地域の未来を創るには、一人ひとりが地域について真剣に考え、地域の課題をじぶんごと化し、主体的に行動することです。私たちが住む町だからこそ当事者意識をもって解決を目指すことで誰もが暮らしやすい町になると思います。

【企画科】

- ・その地域に住んでいる人が「住んでよし」になるために、何を求めているのか、何に困っているのか。その地域に訪れる人が「訪れてよし」になるために、何を求めているのか、何が課題なのか。一人ひとりがそれに向き合っていくことが重要であると「グローバルビジネス」の授業で学んだ。その学びを活かして、今の京都（住んでよし、訪れてよし）に何が求められているのかを徹底的に耳を傾けることが私たちにできることだと思います。
- ・今の京都の現状（観光客・地域住民の双方が抱えている困りごとや改善すべきこと）を知る。それをできるだけたくさん年代、地域の方に発信し意見を募る。同時に、私達も他府県や外交の事例を参考に解決の方法を探す。京都に住む私達や地域住民、京都の外に住み観光客になりうる人、双方をまき込み課題解決するきっかけを創ることが重要である。

○学科の学びを生かして、「働いてよし」の京都を創るために私ができること

【起業創造科】

- ・私達は自分らしく働くための新しい働き方（副業、兼業、社内起業）を学んできました。従来の働き方に捉われず、自分のライフスタイルに合った多様な働き方ができる環境が整うことが「働いてよし」の京都になると思います。
- ・誰もが働きやすい、働きたいと思う街とは？そんな京都になることが理想です。他の地域から人が集まり、街が賑やかになる、サービスが充実して街が活性化する。福祉も大切かもしれません。ではどうすれば？そんな街を創造していきたいです。



【企画科】

- ・言語の壁をなくし、同じ人間として対等に接していけるようにオフィスをグローバル化する、日常生活で異文化に触れることができる取り組みを提案します。また、地域の方々とその地域の企業が密接に関連したプロジェクトを実施することで地域の方々にも企業を理解してもらい、働く人にもやりがい、働きがいを仕事に持ってもらうようにしたい。
- ・会社に就職した際に、周辺地域の方々と接する機会があると思うので、会社と企業との横のつながりを大切にしていくことが未来の京都にできることがと思います。横のつながりから生まれる絆により住んでいる人にも、働いている人にも「よし」が生まれると思います。

○学科長からのメッセージを受けて感じたこと、考えたこと

【起業創造科】

- ・やりたいことがなかった中学生の自分が、普通科ではなく、商業科に来たこと自体が私のチャレンジだった。3年間で本当に多くの経験をさせてもらって、とっても成長した。その経験を終わらせるのではなく、糧にしてこれからの経験と成長につなげられるようにしていく。起業創造科に入れて、1期生になれて本当に良かったし、誇りに思う。
- ・起業創造科1期生という言葉をとっても誇らしく思えました。残りわずかな高校生活だからこそ、その瞬間でしか学べないこと、経験できないことやっていきたいと思えます。特に、起業マネジメントの授業は今後も学習していきたいものです。正直、まだ起業するとなったらリスクや金銭のことを考えてしまいましたが、授業で習った地域を応援することができ

【企画科】

- ・自分のものさしを増やす。他人の価値観を認める。小川先生がいつも授業や講演の時に言うてくださっていた。この3年間の授業を通して新しい価値に出会うこと、考え方を増やすことができ、結果としてもものさしの数が増えたのではないかと思います。残りの高校生活でもっとこのものさしを増やすことができれば良いなと思います。そして、社会に出たときにこのものさしを生かすことができるようにしたいです。
- ・自分の中にもものさしをつくる。固定概念を壊す。海外に行って、自分の中の価値観を再構築する。日本の中にもできることをする。例えば、しゃべったことのない人に話しかける、先生に積極的に話しかける。自分の今まで考えたことのない考え方に触れることで、新たな企画

ると学べたことは私のエネルギーになっています。私が起業する時にはもっと子供達に起マネのような新しい学習を学べる場を築き上げたいと思えました。

- ・自分達から始まった起業創造科は、自分自身もすべてが初めてのことで、不安を持ちながらも自分ができること、地域のためにできることは何かを考えていた。本当に、いろいろな人とつながることができることができ、講演に来てもらうことで日本にはこんないろんな人もいるのかと知ることができ、自分もそういったことができる人になりたいと思えるようになった。他校では絶対に学べないことを学ばせてもらったと思った。



が生まれ自分の視野を広げることができ。残りの高校生の期間でたくさん話しかけたことのない人と話すことが大切。

- ・固定的な概念や視野の狭い考え方を持った人にはなりたくない。自分の意志を持ち、自信を持って積極的に挑戦できる人になりたい。その上で周りとの協調性を持ち合わせながら成長していきたい。



【成 果】 ○地域との協働による高等学校教育改革推進事業の取り組みとして実施した。商業科の改編と同時に本事業が始まり、3年間この取り組みが、新学科の学びの推進力となるよう二人三脚で進行してきた。生徒報告書から、生徒達には新学科である起業創造科と企画科の学びの目的は十分に理解できたと考える。起業創造科では、「地域」「地域課題発見」「地域企業とのつながり」など学びのキーワードになる言葉が見受けられた。企画科でも、「世界」「途上国の課題」「多様な価値観」が見受けられた。そして、共通の言葉として「じぶんごと」「巻き込む力」「みんなごと」が見受けられ、本事業のプロジェクトに対する理解もできていることが読み取れる。(生徒の変容についての詳細は「4 研究開発報告(3) 研究開発による生徒の変容の結果」参照)

オ コンソーシアム会議の実施

① コンソーシアム会議構成員

氏名	機関名	役職
深尾 昌峰	龍谷大学	政策学部 教授 (プロジェクトマネジメント)
三木 俊和	伏見いきいき市民活動センター	センター長 (地域協働活動ファシリテーター)
早崎 真魚	京都市伏見区役所	地域力推進室 企画課長 (コミュニティ会議企画、運営)
押領司 哲也	京都文教大学	社会連携部フィールドリサーチオフィス課長 (高大連携)
新見 和也	京都あおい税理士法人	代表社員 (インターンシップ受け入れ、租税教室)
可児 卓馬	公益財団法人 京都地域創造基金	専務理事・事務局長 (NPO・資金調達コンサルタント)
米原 裕太郎	公益財団法人 京都市ユースサービス協会	総務担当ユースワーカー (社会貢献活動の調整、推進)
貴島 良介	京都府立京都すばる高等学校	校長 (学校全体としての組織体制整備)・総括
村田 勝彦	京都府教育庁指導部高校教育課	課長(管理機関、本事業の総合調整)
松尾 哲郎	京都府教育庁指導部高校教育課	課長補佐兼係長 (管理機関、本事業の総合調整)
小西 良尚	京都府教育庁指導部高校教育課	総括指導主事(管理機関、本事業の総合調整)
谷口 智史	京都府教育庁指導部高校教育課	指導主事(管理機関、本事業の総合調整)
北村 俊幸	本校・副校長	総括補佐 (研究内容)・渉外
星川 俊一郎	本校・副校長	総括補佐 (研究内容)・渉外
大槻 伊津子	本校・事務長	総括補佐 (経費等)
樋口 海人	本校・主事	経費主担当
小寺 晶見	本校・教諭	商業科主任・全体調整担当・地域協働推進室
北川 博士	本校・教諭	地域協働推進室長
谷口 真里	本校・教諭	教務部長・教育課程担当
難波 昌樹	本校・教諭	生徒指導部長・ボランティアクラブ担当
牧崎 高德	本校・教諭	進路指導部長・高大連携担当
新開 正規	本校・教諭	専門教育部長・地域協働推進室・専門学科調整担当
小川 建治	本校・教諭	企画科長・地域協働推進室
河野 翔太	本校・教諭	起業創造科長・地域協働推進室
只川 徹	本校・主幹教諭	地域協働推進室
久保 芳行	本校・教諭	商業科・プロジェクトリーダー
井筒 学	本校・教諭	商業科・プロジェクトリーダー
崎井 滉太	本校・教諭	商業科・プロジェクトリーダー
岩上 正明	本校・常勤講師	地域協働推進室補助業務・プロジェクト進行サポート
梅木 良輔	本校・常勤講師	地域協働推進室補助業務・プロジェクト進行サポート

上記一覧の通り令和3年度(最終年度)コンソーシアム会議構成員が決定した。龍谷大学深尾昌峰教授をはじめ初年度より構成員になっていただいている方々に3年間を通じて参画いただけたことは体制づくりとして大きな成果であり、地域とつながる授業の応援の仕組みが整った。具体的には、龍谷大学、京都文教大学とつながる高大連携授業、地域税理士の方による租税教室、京都市伏見青少年活動センター(京都市伏見区役所内)での屋台出店などコンソーシアム構成員の方の協力による地域とつながる連携授業が実施できた。また、地域とつながる授業の実施には行政との連携が必要不可欠であり、行政からの協力体制として、京都市伏見区役所と昨年度末に包括協定を締結し、学校と行政が協働して地域人材を育成する体制ができた。

この事業を行う上で、高校と地域とを結び、地域課題などをリアルに生徒へ伝えるためにコンソーシアム体制の協力とともに、学校とコンソーシアムが育てたい生徒像を設定・共有することが大切であった。そして、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」の高校側授業づくりと「誰と学ぶのか」「どのような環境で学ぶのか」の地域側環境づくりを合わせたカリキュラム開発を行ってきた。

② 第1回コンソーシアム会議

【日 時】 令和3年7月1日（木）15時00分～17時00分

【出席者】 コンソーシアム会議構成員・研究推進委員会構成員

- 【内 容】
- 令和2年度 事業報告
 - 3年目研究開発内容（授業実施計画）について
 - コンソーシアムによる応援体制の重要性（地域協働推進室）
 - コンソーシアムの持続可能な体制づくり（地域協働推進室）
 - 2年目を終えて事業最終年度に期待すること（教育委員会）
 - 新学科完成年度3年間の体系的、系統的な学びと今後の課題（学科長）
 - 事業評価における生徒アンケート結果の分析
 - 構成員の方より 今後の事業についてディスカッション



③ 第2回コンソーシアム会議（運営指導委員会との合同会議）

【日 時】 令和4年3月18日（金）14時00分～17時00分

【出席者】 コンソーシアム会議、研究推進委員会構成員（運営指導委員会構成員）

- 【内 容】
- 令和3年度取り組み報告（成果と課題）
 - 地域協働事業コンソーシアム体制と地域課題解決型授業について小ワークを実施
 - 運営指導委員から3年間の取り組みについて評価および講評
 - コンソーシアム会議から3年間の取り組みについて講評および次年度以降の事業継続に対して助言
 - 京都府教育委員会から3年間の事業の評価および今後について
 - 校長からコンソーシアム構成員の方へのお礼と今後について

カ 運営指導委員会の実施

① 運営指導委員会の構成員

氏名	機関名	役職
山本 ひとみ	京都市伏見区	区長（専門的見地からの指導、助言）
榊田 隆之	京都信用金庫	理事長（専門的見地からの指導、助言）

池田 武 (委員長)	京都府総合教育センター	教師力向上総括アドバイザー（専門的 見地からの指導、助言）
深尾 昌峰	龍谷大学	政策学部 教授（オブザーバー）
行元 沙弥	特定非営利活動法人グロ ーカル人材開発センター	代表理事（オブザーバー）
三木 俊和	伏見いきいき市民活動セ ンター	センター長（オブザーバー）

② 第1回運営指導委員会

【日 時】 令和3年7月1日（木）13時00分～14時30分

【出席者】 運営指導委員・京都府教育委員会・校長・副校長・事務長・カリキュラム
開発等専門家・地域協働学習実施支援員・地域協働推進室担当者・学科長

【内 容】 ○運営指導委員長（池田武様）の選出
○令和2年度取り組み報告
○地域協働学習実施支援員より事業報告
○カリキュラム開発等専門家より事業報告
○委員より事業実施に関する指導・助言



③ 第2回運営指導委員会（コンソーシアム会議との合同会議）

【日 時】 令和4年3月18日（金）14時00分～17時00分

【出席者】 運営指導委員・京都府教育委員会・校長・副校長・事務長・カリキュラム
開発等専門家・地域協働学習実施支援員・地域協働推進室担当者・学科長
（コンソーシアム会議構成員）

【内 容】 ○令和3年度取り組み報告（成果と課題）
○地域協働事業コンソーシアム体制と地域課題解決型授業について小ワー
クを実施し、その後両ワークでの意見の共有
○運営指導委員から3年間の取り組みについて評価および講評
○コンソーシアム会議から3年間の取り組みについて講評および次年度以
降の事業継続に対して助言
○京都府教育委員会から3年間の事業の評価および今後について
○校長から3年間の事業のお礼と今後について

キ 地域協働学習実施支援員による地域とのコーディネート役割

① 地域協働学習実施支援員の設置（事業1年目設置）

伏見区内で、地域課題を地域の住民の方と一緒に解決されている京都市伏見いきいき市民活動センター三木俊和センター長に依頼し3年間コーディネーターとして参画いただけた。経験も豊富で地域からの信頼も厚く、教育現場での活動もされている三木様に地域協働学習実施支援員として3年間も入っていただけたことにより多くび企業の経営者や地域の方とつながる授業が実施できた。また、コンソーシアム会議の構成員として、高校と地域とのコーディネーターとしての取り組みを会議で共有することや運営指導委員会で事業報告などの役割も担っていただいた。

② 地域協働学習実施支援員の役割

- 地域課題解決型授業の連携先支援など地域と高校をつなぐ
- 地域課題解決型授業における講演やファシリテーターとして授業の協力
- 地域課題解決型授業実施時の支援および授業後のサポート
- 連絡会議に参加し、地域協働推進室担当および各授業担当者との情報共有

③ 地域協働学習実施支援員のコーディネート機能

この事業の成果としてコンソーシアム体制の「地域協働学習実施支援員」によるコーディネート機能の充実がある。初年度年間36回、2年目年間70回、3年目年間66回の地域協働連絡会議を開催した。授業担当者と情報共有することで、地域とつながる授業においてテーマに最適な地域や企業と連携ができた。教員個人のつながりでは難しい、地域と協働した連携が可能となった。3年目の今年度は、年間を通じて地域課題解決型授業にファシリテーターとして出席、サポートいただき、そして、コロナ感染症の影響で生徒が地域に行くことができないときに、オンラインを活用して現地に出向き取材等により地域とつないでいただけた。今後、このような地域と協働した取り組みをする学校では、この「地域協働学習実施支援員」によるコーディネートと授業のファシリテートの役割が重要である。また、このコーディネート機能を校内の先生とつなげる役割の「地域協働推進室」担当教員の2者のつながりが今後の地域協働の授業において必要不可欠な役割である。





ク カリキュラム開発等専門家によるカリキュラム開発

① カリキュラム開発等専門家構成員

氏名	機関名	役職
深尾 昌峰	龍谷大学	政策学部 教授 (プロジェクトマネジメント)
行元 沙弥	特定非営利活動法人 グローバル人材開発センター	代表理事 (カリキュラム開発アドバイザー)

② 活動日程・活動内容

【第1回カリキュラム開発等専門家会議】

【日時】 令和3年5月24日(月) 17時30分～19時30分

【場所】 本校(オンライン)

【内容】 学校設定科目を活用した地域協働カリキュラム開発について・起業創造科「起業マネジメント」を活用した授業のゴールイメージの共有

【第2回カリキュラム開発等専門家会議】

【日時】 令和3年7月29日(木) 13時～16時

【場所】 QUESTION(京都信用金庫ビル)

【内容】 起業創造科「起業マネジメント」を活用した具体的カリキュラム内容について・外部企業と連携した「企業内起業」実習の実施について

【第3回カリキュラム開発等専門家会議】

【日時】 令和3年9月21日(火) 11時～12時30分・22日(水) 11時～13時30分

【場所】 本校(オンライン)

【内容】 起業創造科「起業マネジメント」授業実施(企業課題の現状共有および課題解決の着眼サポート)

【第4回カリキュラム開発等専門家会議】

【日時】 令和3年10月13日（水）11時30分～13時00分・
15日（金）11時30分～15時00分

【場所】 本校（オンライン）

【内容】 起業創造科「起業マネジメント」授業（ショートピッチ外部講師・生徒ワークサポート）

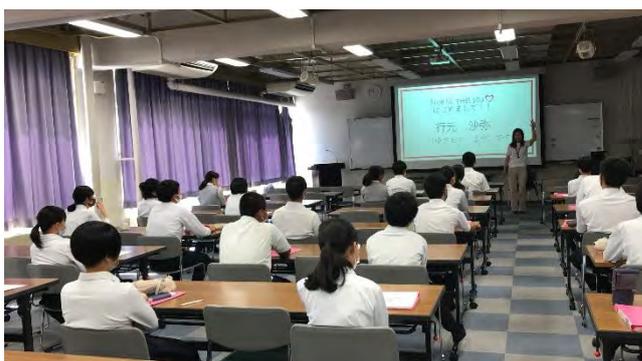
【第5回カリキュラム開発等専門家会議】

【日時】 令和3年11月10日（水）13時00分～16時00分

【場所】 本校

【内容】 起業創造科「起業マネジメント」最終発表について

2年目より、特定非営利活動法人グローバル人材開発センター代表理事の行元沙弥様にカリキュラム開発アドバイザーとして参画、学校設定科目等のカリキュラムの策定支援や実施体制の構築を行っていただいている。3年目となり、地域課題発見解決型授業の企業連携の企画・実施支援の体制ができつつある。今後、「社会に開かれた教育課程の実現」には教員の内部の視点以外に「外部の専門家」としての視点が必要不可欠である。



ケ 地域公共政策士資格養成に向けての取り組み

この事業の研究開発目標の1つに「地域公共政策士（高校生版）」の養成がある。地域公共政策士とは、「地域公共人材」の能力を保証する地域資格のことであり、社会的課題を産官学民の連携のもとに解決するため、協働型社会にふさわしいアプローチで地域の公共的活動や政策形成の主導及びコーディネートができる人材育成を目指している。龍谷大学地域協働総合センターが代表校（平成24年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」に採択された「地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化」の事業を京都府下の大学と連携している）であり、京都の9大学で地域公共政策士に必要な単位取得が可能である。令和2年度に資格創設大学である龍谷大学が「学まち連携大学」促進事業採択大学の認定を受け、事業内容の項目の1つに、地域公共政策士（高校生版）の資格認定が入り、一般財団法人地域公共人材開発機構と龍谷大学と本校の三者で仕組みを作る体制が整った。そして、今年度「ワーキングチーム」が立ち上がる予定であったが、コロナ感染症の影響もあり議論が止まっている。残念ながら、3年間の指定事業内に資格認定を開始することは出来なかった。今後、引き続き三者で議論を継続していきたい。

(5) 今後の課題と事業終了後の持続可能な仕組みづくり

ア 今後の課題

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」における地域課題解決型授業の設計は、研究開発による生徒の変容を見ても明らかに有用性があることが分かる。このような授業が実施できたのも充実したコンソーシアム体制があったからである。コンソーシアムによる協力体制、カリキュラム開発等専門家によるカリキュラム構築の支援、地域協働実施支援員によるコーディネート機能が極めて重要である。

特に、カリキュラム開発等専門家には、カリキュラム開発アドバイザーとして参画、学校設定科目等のカリキュラムの策定支援や実施体制の構築を行っていただいた。今後、「社会に開かれた教育課程の実現」には教員の内部の視点以外に「外部の専門家」としての視点が必要不可欠である。また、地域協働学習実施支援員には、地域とつながる授業においてテーマに最適な地域や企業と連携を行っていただいた。教員個人のつながりでは難しい、地域と協働した連携が可能となった。今後、このような地域と協働した取り組みをする学校では、この「地域協働学習実施支援員」によるコーディネートと授業のファシリテートの役割が重要である。また、このコーディネート機能を校内の先生とつなげる役割の「地域協働推進室」担当者の教員の二者のつながりが今後の地域協働の授業において必要不可欠な役割である。

このように、次年度以降に本事業による成果を踏まえた授業を継続、発展させる上では、コンソーシアム体制の継続が大きな課題である。

イ 事業終了後の持続可能な仕組みづくり

どうすればこの体制が事業終了後も持続可能となるのか。同じ規模で全く同じ体制を維持することは不可能である。そこで、今年度より新たにスタートした「コミュニティスクール（学校運営協議会）」にその一部を移行し、機能を担っていただくことで体制が維持できないかと考えている。この組織の構成員に、現コンソーシアム構成メンバーに参画いただき3年間の事業の成果や課題を共有し、協力体制の維持を計画する予定である。

しかし、もっとも持続すべきは、「地域協働学習実施支援員」によるコーディネート機能である。このことには、「府立高校の在り方ビジョン（仮称）」（魅力ある府立高校づくり 地域・企業・高等教育機関との連携の強化 高校生と地域の架け橋となるコーディネーターの配置）に地域コーディネーターの配置の重要性が明示されたので、地域コーディネーターの配置のための事業化を目指したい。次年度についての支援体制は、「スペシャリストネットワーク京都」事業による外部講師として継続する予定である。

5 地域協働応援団よりメッセージ

(1) 地域協働学習実施支援員

地域協働の完了年度を迎えて～さらなる可能性～

有限責任事業組合 まちとしごと総合研究所
三木 俊和

平成31年度（令和元年度）から地域協働学習実施支援員として、高校と地域の連携のサポートに参画させていただき、早くも最終年度を迎えました。

当組織は京都の市民社会づくりに寄与してきた、NPO法人きょうとNPOセンターを前身とし、地域づくり・仕事づくりをテーマに民間・市民による地域のためのシンクタンクです。京都すばる高校も所在している京都市伏見区においては、京都市が設置する「京都市伏見いきいき市民活動センター（以下伏見いきセン）」を運営し、豊かな地域社会づくりのための市民の活動拠点となっています。伏見いきセンは多くの地域の方にイベントや会議などの活動でご利用頂いていることはもとより、現在の活動についての悩みや課題を共に解決するための相談対応や、協働で課題解決につなげる取り組みを行っています。特色としては地域課題と向き合い解決のための知恵や行動をつなぐ、若者と地域相互の学びあいの循環を「コミュニティ・ラーニング」と捉え、コンセプトに据えています。一例として平成23年より龍谷大学政策学部と連携協定を結び、地域の課題解決と人材育成を結びつけていくRyu-SEI GAP（龍谷大学政策学部 グローカル・アクション・プログラム）を展開し、プログラムを運営しています。京都すばる高校の地域協働事業に、伏見いきセンも地域とのつなぎ手として、また地域協働学習実施支援員として、関わらせていただき、高校生と地域によるコミュニティ・ラーニングを応援しています。

さて、長引く新型コロナウイルスの影響は、最終年度となる本年度においても完全に終息することはなく、授業づくりにおいてもwithコロナ体制の中での実施となりました。しかし京都すばる高校においては、オンライン移行など感染症対策下での外部連携に早期に対応する試行がなされていたこともあり、地域との連携やつながることを止めないことに加えて、各先生の授業において様々な工夫が行われていました。

一例としては、今年度より起業創造科、河野学科長の運営されるEゼミの運営に伴走させていただき、運営に参画させていただきました。当初の計画では、ソーシャル・アントレプレナーとして実践できるよう、向島の農家のみなさんとの連携などをベースとした地域産品を活用したオリジナルの店舗出店を目指すということを検討していました。しかし新型コロナウイルスの新たな変異株の流行もあり、地域のお祭りでの屋台出店などで試験実施する計画が難しいものとなり、調理実習など授業内での調理が難しい中で、試作品の検討も難しい状況となりました。

このような中で、2つの工夫が有効であったと思います。ひとつは地域で屋台での販売などを行っている事業者の方にオンラインでアドバイスをいただく場を持つことや、屋台出店場所を地域のユースセンターにご協力をいただき、独自の商品試作や販売実施を行うことができました。授業計画に変更があったとしても、地域のネットワークの中から複数の候補にご相談を行い、「1分の1」の状況ではなく、生徒の学びの観点からも適した状況を生み出すことができるような「選択」を先生が行うことができるという環境は、地域と連携した授業づくりにおいて重要であり、高校立地エリアで活動展開をしているネットワークを活かすことができたのではないかと考えています。

ふたつ目に、感染症対策として校外へ生徒が赴くことが難しい時期、オンラインでのフィールドワークを実施することができた点があげられます。支援員が実際に現場からZOOMでつなぎ、現地を案内していただきながら、解説をしていただきました。生徒の「〇〇をもう少し見せてください」という呼びかけに応じ、実際にそこに現地から足を運ぶことは、ともすれば現地フィールドワークでは「現地の方の案内を聞いて、全体でついていく」という受動的な態度ではなく、「見たい・知りたい」と感じたことを意識的に声にしカメラをそちらに向けてもらうことで、全体にも一人ひとりの気づきが共有され、主体的なフィールドワークになったように思います。

このように、新型コロナウイルスへ対応に迫られて工夫したプラクティスを積み上げ、それらをアフターコロナの教育活動にどう活かしていくかは、重要な議論であると考えています。特に、オンラインでのゲストスピークやフィールドワークは、ビデオなどの映像教材と組み合わせ、さらにライブ感があり生きた授業を展開していくためには重要な観点だと思っています。特に実践度の高い授業を展開しようとされている京都すばる高校にとっては、授業運営における大きな強みになると思います。

おすびに、3年間支援員活動をさせていただきました京都すばる高校の先生方、支えていただきました事務の皆様、地域協働推進室の北川先生、小川・河野両学科長に感謝申し上げます。高校のコーディネーターはまず受け入れてもらうことにハードルがあると社会的に言われている中で、そのような課題がまったく無く、仕事をさせて頂きました。本事業3年間の成果が、京都すばる高校の新たなステージの礎となることを願っています。立場を変えても、微力ながら京都すばる高校の応援団として力を尽くせばと思っています。

(2) コンソーシアム会議構成員の方々

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」によせて

龍谷大学学長補佐 政策学部教授
深尾 昌峰

2019年度から取り組みが始まった「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」が早くも最終年度を迎えることになりました。当初からこの事業に関わらせていただき、京都すばる高校の教職員のみなさんと力を合わせて本事業の推進にあたらせて頂いた一人としてすこしメッセージをしたためたいと思います。

この取り組みの前史としては京都すばる高校の学科再編の準備が契機となりました。2019年に企画科と起業創造科を創設するにあたり、起業創造科の学科長をされることになる河野先生が2017年の10月から半年間私の元に長期研修にこられました。「カバン持ち」をさせて欲しいと飛び込んでこられた当時の課題は「創造力とマネジメント力で地域とつながる人材育成」を実現するためにどういった方策があるかをソーシャルセクターの現場でヒントを見つけようというものだったと記憶しています。新学科のカリキュラム編成や教育方法の開発など、河野先生には高い志と同時に、肩には大きなプレッシャーがかかっていたことでしょう。様々なネットワークと現場の空気をたくさん吸って頂いた半年間でした。

さて、現代は不確実性が高く、社会の構造が大きく変化し、地球温暖化対策は待ったなしになるなど、これまでの社会のあり方を大きく見直す必要性に迫られています。これまでの社会的な成功体験が必ずしも通用しない社会が到来しているともいえます。特に日本では人口減少社会というこれまで経験をしたことのないフェーズに入っています。

私は大学でもアントレプレナーシップを涵養する講座を担当していますが、学生たちに常に伝えているメッセージがあります。それは、アントレプレナーシップはアントレプレナーだけに必要なわけではなく、これからどのような職業に就こうとも必要になってくる能力だと言っています。例えば、公務員などはこれから最もアントレプレナーシップをベースにしたマインドや事業構想力が求められると思っています。これまでの公務員は前例踏襲主義で決められたコトを決められた通りに業務を遂行することが求められてきた傾向があります。しかし、社会の構造が大きく変化する中で、本当に地域社会を持続可能でそのに住む人々の暮らしを守ろうとするとイノベーションが必要になってきます。

その視点で考えると産業教育の重要性に気付かされます。戦後、そして高度経済成長を経る中で高等教育においては「普通科」がメインストリームのように位置付き、大学進学率の向上とともに相対的に産業教育の位置付けが下がってきたような気がします。自然や環境と共存し、コトを起こせる人材が求められるこれからの社会において、かつAIやICTの発達で働き方が大きく変化していく中で、産業教育全般が注目が再び集まる気がしています。ただ、懐古的な視点だけではその機会を生かすことができないとも思います。これからの時代の産業教育、その中でも「商業教育」のあり方をポジティブに考えていくと、今回の京都すばる高校の挑戦や経験は大きな意味を持つように思います。

さて、高校生が実際の社会にでて、あるいは社会と繋がって学ぶ意味はどこにあるのかを考えてみたいと思います。実際の社会は複雑で、さまざまな思惑やしがらみもあり、教科書通りにいかない現実があります。ただ、問題を問題と感じる感受性がないと始まりません。この問題を問題と感じる能力は、現状を肯定する発想しか持ち得ない受動的な生き方では磨かれていきません。他者への興味そして立場を超えた想像力をベースに、現状に疑問をもてるかどうか。若者は一旦その点を許容されるとかなり柔軟な発想をもち研ぎ澄ませていきます。若い感受性に加えて、この現状を疑い、もっと別の方法論や在り方があるのではないかと思考する力がこれからを生き抜く若者には必須だと思うのです。地域社会は往々にして「若さ」だけをもてはやします。地域に高校生や大学生がきてくれたら地域が活性化したとか、若い人の斬新なアイデアが...などとよく言います。それは錯覚だと私は思うのです。ある意味で「若さの搾取」です。そういうことで満足するのではなく、本質的に問題の構造を掘り下げ、オルタナティブを提示する力をいかに鍛えるかが重要だと思っています。京都すばる高校の取り組みでは、その観点で非常に厳しいことも言ってきました。先生方が現状に固執し枠組みを変えていく意思と覚悟がなければ教育改革など困難だと偉そうなことも申し上げてきました。カリキュラム的にいえば、自由になる幅が大学などと比べて非常に少ない中で、工夫と試行錯誤を繰り返し、厳しい要求によく応えて頂いたと思います。地域協働推進室の北川先生、小川・河野両学科長をはじめとする先生方の努力に敬意を表したいと思います。

この3年間は新型コロナウイルスに翻弄された時間と重なり、教育現場では非常に大きく困難な局面でした。それは今も続き先生方のご苦勞はいかほどばかりかと思っています。ただ、その中でたくさんの試行錯誤により新たな可能性や知見も得られたと思います。ICTで物理的な空間を越えていけることは教育に大きな幅を与えてくれます。コロナ禍でもっと突き抜けていける余地や可能性を感じれる部分もありました。同時に「現場」や人との直接的な関わり、生徒同士の密なコミュニケーションや葛藤などの重要性も痛感させられたことと思います。それらを両立させていくことも今後の課題だと思っています。

京都すばる高校の新学科の評価はまさにこれからです。真の意味では、卒業生を輩出し、彼ら彼女たちが京都すばるでの学びの意味や価値を卒業後実感した時かもしれません。そういった意味では、益々厳しくなっていく受験動向に成果が反映されていくのには少しの時間的なズレが発生すると思います。目の前の生徒の学びを充実させていく取り組みを真摯に重ねていくことが何よりも大切です。ただ、同時に中学生の進路決定時に、京都すばるの魅力や学びの価値を伝えていく不断の努力はこれからより重要になってくると思います。それらの言語化の努力は怠らず、社会に対していかに京都すばる高校が生徒に提供している学びの価値を伝えるか。こちらも大きな期待をしています。

この3年間で蓄積してきた様々な資源は今後の京都すばる高校にとって貴重な資源となると確信しています。特に地域とつながりながら、互恵的に教育や地域の取り組みをすすめていくスタイルはこれからの高校教育のモデルになると考えています。これからも連携を深めていければと思っています。

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」によせて

伏見区役所地域力推進室企画課長

早崎 真魚

1 自己紹介と京都すばる高校との関わり

私は令和3年4月に伏見区役所に異動してき、約1年が経とうとしています。業務としては、伏見区全体のまちづくりの指針となる「伏見区基本計画」の推進や、市民しんぶん伏見区版などの広報、また、まちづくり活動への補助金制度などを担当しています。

さらに、伏見区独自のプロジェクトとして、全国唯一の内陸河川港湾である伏見港の「みなとオアシス」への登録を契機に、「みなと」を活かした魅力発信・創造、経済活性化・観光振興などを、地域、団体、事業者、京都府などと一体となりながら進めています。

ただ、コロナ禍の中で、民間を含めて様々なイベントや取組が中止・延期を余儀なくされたり、関係者同士が密なコミュニケーションでネットワークを形成するなど難しかったりと、伏見の持続可能な活性化に向けては、これからの展開が重要であると感じています。

そして、伏見区役所と京都すばる高校とは、令和2年3月に、連携協力に関する協定を結んでおり、様々な場面で相互にとってプラスとなる取組を進めていきたいと思っており、私自身もコンソーシアム会議のメンバーとして、折に触れて京都すばる高校の取組に関わっているところです。

2 地域との協働による授業について

今年度は直接的に一緒に関わって授業をつくってきたわけではないですが、様々な機会に御報告を聞いていると、生徒の生きた学びのために、ここまで組み立てることができるのかと率直に驚いています。高校生が実際の社会の中から学ぶこと、それをとことんまで追い求めて、担当されている先生方や学校の想い、気迫が伝わってきます。

生徒の発表を聴いていても、自分たちなりに捉えた課題を踏まえ、それに対する解決策が考えられているとともに、それを堂々と発表する姿に、将来の担い手としてとても心強く感じ、授業に込められた想いやねらいはしっかりと伝わっていると思います。

そして、この授業に関わっている外部の方々は、お忙しい中、愛情をもって高校生と関わり、その成長を心から願っている様子が感じられ、こうした外部からの応援団とのつながりが京都すばる高校にとっての一番の財産ではないかと思えます。

3 今後に向けて

文部科学省の事業指定も今年までということで、充実した体制を組んで様々なチャレンジし、可能性を広げてきた3年間を総括して、来年度以降、何を継続して発展させていくのか、という取捨選択のタイミングです。

そうした中、育てたい人物像を明確に設定し、3年間の中で、まずは地域の課題を自分に引き付けて考える「じぶんごと化」、そして、その解決のため多様な主体を巻き込んで

いく「みんなごと化」と、段階を踏んでステップアップしていく組み立てはとてもよく考えられていると思います。

この3年間を過ごした卒業生が、実社会の中でどんな担い手に育っていくのかも把握しながら、こうしたプログラムをより実効性あるものに磨きあげていただけると大変ありがたいと思います。

行政の仕事も、複雑化、複合化する地域課題の中で、教科書的な回答はありません。まさに、京都すばる高校がやろうとしている、リアルな地域課題の掘り取り、地域・関係者と協働しながら解決に向けた不断の取組を続けていく、そんな人材が求められています。同僚として、また、地域での協働の相手として、京都すばる高校の卒業生と、現場で一緒に仕事ができるのを楽しみにしています。

「地域で育んだ人財が未来にイノベーションを巻き起こす」

京都文教大学・短期大学 社会連携部
フィールドリサーチオフィス（FRO） 課長
押領司 哲也

京都文教大学・短期大学の地域連携、社会連携の窓口として、FROは、地域のあらゆるステークホルダー（行政、経済団体、NPO、地域企業、各種団体、地域住民、高校、中学校、小学校、幼稚園、保育園、子ども園など）と学生、教職員を繋ぐ役割を果たしています。また、学内においても、地域との橋渡し役として、地域志向教育や就職進路、入試広報を担当する部署と協働して業務に取り組んでいます。

京都すばる高校とは、学生のPBL（Project Based Learning）授業やすばるデパート、教員の出前授業など、数々の連携をしてきました。本事業においては、3年生の「課題研究」高大連携ゼミでの学生との交流や向島地区での地域連携活動などに取り組んでいます。また、事業外になるかもしれませんが、2021年度は2年生を対象とした地元企業の事業所見学バスツアーに学生とともに関わらせていただきました。

2021年度の高大連携ゼミでは、地域連携学生プロジェクト「KASANEO」と学生広報チームが、1学期から2学期の前半にかけて、高校生との交流も含め、授業に取り組みました。ゼミ担当の北川先生とは、前年度の2月頃から打ち合わせを開始し、時には学生も交えながら準備を進めてきましたが、緊急事態宣言が重なったこともあり、打ち合わせ、計画をしては延期の繰り返しになりました。成果発表会もオンラインになったため、対面できる機会は少なかったですが、それでも、双方に収穫があったと感じています。

具体的には、「KASANEO」は、普段は本学に通う「宇治市高齢者アカデミー」の方々を中心としたシニア層とファッションを通じた多世代交流に取り組んでいますが、今回の連携ゼミでは「親御さんの思い出の衣服」について、課題提供しました。この課題を通じて、生徒の皆さんは親御さんの衣服に詰まった思いや感情、当時のできごとを知り、これまでとは違った親の一面を垣間見て、自身のこれまで、そして、そこにかかわる周りの方々の存在について、思いを巡らせる機会になりました。一方の学生も、シニア層とは違った年代との交流を通じて、自分たちの活動の拡がり、可能性を感じることができ、衣服を通じた高校生とその親御さんの新たなコミュニケーション機会を創出することにつながったと思います。また、学生広報チームは、オープンキャンパスにおいて、京都文教大学の魅力を発信していますが、同じように京都すばる高校の「魅力」の発信について、課題提供しました。生徒の皆さんが、日常的に取り組んでいることをあらためて、「客観視」「相対化」することで、他の高校にはない京都すばる高校の「魅力」に気づく機会になりました。学生にとっても、日々の活動をあらためて「言語化」して、高校生に伝えることで、自身の活動の内省、ふりかえりの機会になったと思います。

高校生が授業を通じて、地域の大人や社会人、学生と関わることで、自分たちを取り巻く現実の生きた社会や世の中のこと、そして、自身のロールモデルとなる格好いい大人や学生を知る、学ぶ機会になります。また、「内（教室での学び）」と「外（地域での学び）」の「学び」の往還、教室でインプットしたことを地域や現場でアウトプットし、地域や現場でインプットしたことを教室でアウトプット（ふりかえり、検証、内省）することにもつながります。授業の大半を占める「教科科目」と地域での学びが連動することで、授業間のヨコ連携、相乗効果、学びの深まりも期待されます。地域においても、域内の「ヒト」が世代を超えて、域内の若者、次世代を育むことにつながってきます。

本事業を通じて、地域の温もりとともに育った「若い人財」が、「じぶんごと」「みんなごと」の視点を持って、社会で活躍し、未来を創造することを信じています。

「帰納法」

京都あおい税理士法人
税理士 新見 和也

京都府立京都すばる高校と税理士会伏見支部は、「租税教室」という企画からその関係が始まり、今では税理士事務所との「インターンシップ」、確定申告書の作成授業等を通じて高等学校教育現場に実務家としての視点をもって参画させていただいている。

今回、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に関わらせていただき、感じたことは、基礎としての高等学校教育カリキュラムを土台に、生徒の皆さんが地域社会の課題である安心・安全・快適な社会生活を過ごすうえで問題となる地域社会の課題に気づき、解決策を提案し、その実施を検討するというところにある。

この事業は、生徒自身・父兄・教職員といった学校関係者だけではなく、校外の地域住民・行政をも巻き込んで考えるというユニークなもので、10代の高校生の視点には大人にはない着想と発想力がどのグループの発表にも感じられるものである。

また同時に発信することの大切さについても気づきもあった。「どのようにしたら人に伝わるのか。」高校生ならではの創意工夫を持った発表には、準備・プレゼンと各々が役割を担い各班が思い思いの趣向を凝らしているのがあった。

「演繹法」と「帰納法」がある。高等教育におけるカリキュラムは、「答えのある演繹法的な教育」であるが、他方この教育改革推進事業は、「答えを探す帰納法的な教育」であると思う。自分たちが日常過ごしている地域社会の課題を見つけ、その解決策を高校生の視点で求めるこの事業は、地域住民活動・ボランティア活動の視点を高等教育に取り入れたものであると感じた。生徒のみなさんの発表を聞きながら、TVの特集番組にあるような諸外国の高校生が気候変動について活動している事例を思い起こしていた。この事業の意義は、地域社会の一員としての10代の視点や声を発信するというところでもあると思う。そのように感じた。

他方、今回の事業推進は、多くの時間をコロナ禍の影響を受け 所期の企画の実施に様々な制約と困難があったはずである。担当された先生方の苦労は、これまで当該事業に応募した他校にはない時間的、労力的な負担が様々あったはずであり、この事業が成功裏に終えることができたのは、生徒たちの努力だけではなく、学校長をはじめとした教職員先生方の成果でもあると思う。「最適な答えを生徒たちと一緒に探す」という当事業の推進において、生徒たちに発想や着眼点、思考をプレゼンテーションという形に具現化するという作業は、指導に当たられた先生方の適切な指導や助言、ご努力の賜物と考える。唯一無二の研究発表は、ユニークであり、考えさせられた。

「京都すばる高校みんなごと化プロジェクト」によせて

公益財団法人京都市ユースサービス協会

チーフユースワーカー

米原 裕太郎

私の所属する公益財団法人京都市ユースサービス協会では「若者を子どもから大人への移行期にいるすべての人と捉え、若者が権利主体として自己選択と決定が保障される自由な活動な場を若者ととともに形成し、若者及び若者と関わる大人やコミュニティ、社会システムに働きかける実践である。」というユースワークの定義のもと、京都市域で活動を展開しています。具体的には市内7カ所の青少年活動センターを運営し、自主活動の場の提供、様々な困りごと・悩みごとの相談対応や地域参加につながるボランティアプログラムの実施など広く若者の支援を行っています。

京都すばる高校とは2017年の秋に当協会と認定NPO法人日本ファンドレイジング協会、公益財団法人京都地域創造基金の3団体で運営をしていた社会貢献教育プログラムを授業で実施させていただいた頃からの付き合いです。北川先生を始めとした熱意のある先生方や、新しいことを必死に吸収しようと頑張る生徒たちの姿に驚きとうれしさを感じたことを覚えています。

社会貢献教育という名前ですが、社会貢献「を」学ぶのではなく社会貢献「で」学ぶこのプログラムは学校の中だけではなく、学外や地域、社会全体に目を向けて様々なフィールドで活動しているNPOとの出会いが大きな要素となっています。

2018年以降も引き続きプログラムを実施させていただいていましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、当初のようなダイナミックな授業を我々から提供できていないことは気がかりです。しかし、2019年からの「京都すばる高校みんなごと化プロジェクト」では多様な人・団体との出会いの機会が多く生まれていると聞いていますので、私たちが大事にしてきたことが引き継がれていっていると思います。

この3年間の京都すばる高校の取り組みを応援してまいりましたが、生徒が地域に目を向け、そこにある課題の解決を考えるプロセスは生徒自身の成長に大きく寄与すると確信しています。そんな営みを丁寧に生み出していただいた京都すばる高校の教員の皆様には頭が下がります。そして積極的にチャレンジをしてきた生徒たちにも拍手をおくりたいです。

コロナ禍の影響で授業展開が難しくなり、ニュース等でも「青春が奪われた」という若者たちの声もよく聞かれますが、だからこそこの3年間で彼らの将来に大きな影響を与えたいと思いますし、今後社会でどのような活躍をされるかが楽しみです。

もちろんここがゴールではありません。むしろこの3年間を生かして来年度からどのような展開をしていくかが重要になります。これからも微力ながらお力添えしていければと思います。

「持続可能な地域のためのお金の流れを作る」

公益財団法人京都地域創造基金 専務理事・事務局長

可児 卓馬

私ども公益財団法人京都地域創造基金は社会の課題解決や地域の活性化などの「公益活動を支援したい人々」と、「公益活動を推進する団体」等の双方の想いを具現し、資源の仲介を行い、社会を構成するすべての主体が「公益を支える仕組み」を構築することにより、持続可能で豊かな地域社会の創造と発展に寄与することを目的として事業を行なっています。具体的には地域活動、公益活動のための資金仲介を中心に、その仕組みづくりや調査研究、普及啓発事業に取り組んでいます。

近年ではSDGsの広まりから、「公益を推進する団体」が多様になり、伝統的なボランティア団体や非営利活動だけでなく、複数の企業体による公益活動や学生中心の活動に資金を提供することが増えています。地域に根ざした様々な主体が地域の持続可能性のために行なう活動、それを資金面で支えています。

また「公益活動を支援したい人々」も近年多様性が増しています。弊財団が創業した2009年頃は寄付といえば篤志家や経済的に余裕のある一部の富裕層が行なうものと考えられていました。しかしふるさと納税やクラウドファンディングなど法制度や科学技術の移り変わり、そして東日本大震災をはじめとする自然災害や近年のコロナ感染症拡大などの状況から多くの方が寄付を行うことができ、また行なうような社会になっています。特筆すべき変化としては相続財産の寄付や不動産の寄付など非常に大きな資金の流れが生まれ始めていることです。今後空き家などの不動産の地域での活用や地域に相続財産を遺す活動が、「公益活動を支援したい人々」と、「公益活動を推進する団体」等の双方から求められると考えています。

このような社会の変化の中、高校生が地域の持続可能性を高めるために、新たな地域の資金の流れを生み出す活動に弊財団として関与してきました。過去には学生のための寄付教育プログラムやNPOへの現場訪問、資金を集める活動を考えることをご一緒させていただきました。

寄付やボランティア活動は多くの大人にとって「非日常」の行為だと言えます。しかし京都すばる高校の生徒との関わりの中で、実生活の中で地域の持続可能性を高めるための資金の流れを生み出すことが重要であることに気付かされました。日々の買い物、移動、食事など、当たり前の暮らしの中で地域の持続可能性を高める行為は、営利/非営利や公/私と言った区別を超えた行為でした。

私たちと関わった学生は、地域に住む人とのコミュニケーションや協力の中で必要があればボランティア活動や奉仕活動に関与し、また必要であれば寄付を集めたり、寄付をするための販売活動を行うなどの取り組みを行ないました。中には「寄付をするお金はない」という学生もいましたが、商品開発や販売活動を通じて資金を生み出していました。このような活動を通して学生は、与える側、与えられる側と言った区分ではなく、与え、与えられるという豊かな関係を築いていたのではないかと考えています。

社会の状況は複雑に変化しています。人口減少や多死社会など言うまでもなく、科学技術の発展、地球環境の変化など様々な変化があります。そのような中で学校での生活や学びも変化しながら社会とバランスを取る必要があるでしょう。学内で行われる伝統的な教育・学習方法と同様に、学生が地域に出てそこに住む人と関わり地域社会の営みやその流れを感じることは、学生にとって欠かせないでしょう。

また学生が地域社会と関わることは地域社会にとっても重要なことです。そこにいるはずの学生が家と学校だけの閉じた空間にしかいないのは、地域社会からしても豊かさを失っています。学生が地域に出て、つながることが新たな関係性を生み出し、より豊かな地域を作ると言えます。

地域と関わる授業は学生と地域が混ざり合いのきっかけになるのではないかと期待しています。

6 地域協働事業資料集

(1) 起業創造科「起業マネジメント」

(2) 企画科「グローバルビジネス」

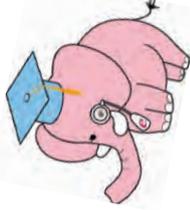
(3) 課題研究レポート「ゼミレポ」

(4) みんなごと化プロジェクト報告会 生徒用シート

2年起業創造科 起業マネジメント-地域ビジネス分野-

- 【注意】①授業の進捗により、問いの全てに取り組みとは限りません。
 ②わからない言葉などが出てきた場合は授業前や後に各自で調べること。
 ③何も考えないままに「わかりません。」「できません。」「は禁止です。」
 ④日付も正確に記入し、授業を欠席した場合は後日取り組んだ日付を記入すること。
 ⑤誰かが読める丁寧な字で記入すること。

2年 組 番 前



■起業マネジメント■地域ビジネス分野 20 年 月 日 () 限

2. 地域(社会)課題とは?

今日、働き方や生き方のものが大きく変わろうとしています。たくさんのお金を稼いでたくさん消費するほど、幸せになる(はず)という生き方を目指していた時代から、違う生き方を求め始めている人たちが目立ってきています。わたしたちの前には、様々な課題が山積しています。しかし、社会課題解決のためには、違い風の変化も起きています。

(1) 消費スタイルの変化
 自分の買いたい物を思い出してみてください。意識していることをあげてみましょう。

(2) 市民の影響力の増大-Change.org (チェンジ・ドット・オーグ)

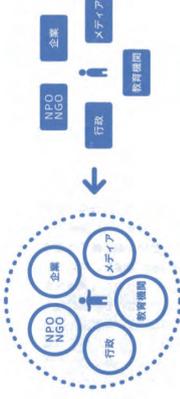
ソーシャルメディアの発達によって、これまで接点のなかった人たちが出会い、仕事や肩書を離れて関わり合いを持ちアクションを起こし、取り組みを始めている人々も多くなっていきます。



<https://www.change.org/>

№ 2

2021年5月4日現在の約4億4千万人以上のユーザーがプロジェクトに参加しています。地域のゴミ問題、現役大学生の休学費用の減額などキャンペーンはさまざまです。実際に、解決につながった社会課題も増えてきています。



時間や立場の壁が低くなり、行政やNPO (NGO)、メディア、企業、個人や団体がつながり影響し合う。
 一人の声が、大きなムーブメントをつくり出せる時代なのです。

(3) 企業姿勢の変化【資料1】【資料2】

一般に、CSRとは「企業の社会的責任」と訳され、社会の目的や価値に照らしての、素晴らしい政策を立て、それを実行に移すことを言います。従業員が地域の住民やNPO (NGO) と一緒に社会貢献に取り組むことも多くなってきています。

【知識】
 「企業は本業を通して社会貢献をする。利益とは社会に貢献したことの証である」と語った「経営の神様」といわれる人は誰でしょう。

→事業やサービスの提供を通じて社会課題の解決を目指すことが企業活動にとって不可欠であると考える会社が増えています。

「アイデアは地球を救う、希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン」株式会社重伝会議 P14-18

■起業マネジメント■地域ビジネス分野 20 年 月 日 () 限

№ 1

1. 創造力を高めよう

本題に入る前に、頭を柔らかくしましょう!

(1) とある「小さなまち」の話しどどのようなストーリーなのか説明してみましょう。

Scene①▶



Scene③▶



Scene④▶



Scene②▶



Scene⑤▶



「アイデアは地球を救う、希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン」株式会社重伝会議 P8-12

■起業マネジメント■地域ビジネス分野 20 年 月 日 () 限

№ 3

問. 右の「ローカル経済」について、【資料2】を参考にしてSDGs17の目標と関係している番号をあげ、その理由を述べなさい。

番号	理由

問. あなたが働きがいを見つけやすいのは、都市部でしょうか? 地域でしょうか? あなたのイメージする「働きがい」について、考えてみましょう。

(4) 身近な問題から考える「ローカル」をしよう
 ① 「日本は都会が元気なのに、地域は元気がない?」
 少子高齢化による人口減少や後継者不足、都市部への人口流入などの影響で、将来的に元気がなくなる可能性がある地域の経済。しかし、「ピンチはチャンス」という言葉があるように、現在の日本では新しい社会のあり方を「ローカル(地域)」から見直す動きが生まれていきます。



「地球循環共生圏」とは、各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方。

重伝重伝(2019)『日本の誇り 私たちのSDGs読書BOOK』株式会社重伝会議 P26-37
 画像: <https://ideasforopd.jp/glossary/regional/circular-and-ecological-sphere/>

【参考】環境×芸術×行政の連携りなす、「重伝版」地域循環共生圏形成



23 見直したい
ローカル経済



上記画像: <https://2020.etic.or.jp/agenda/agenda3/>

問、右の「高齢社会」について、【資料2】を参考にしてSDGs17の目標と関係している番号をあげ、その理由を述べなさい。

Table with 2 columns: 番号 (Number), 理由 (Reason)

問、高齢者と現役世代（いわゆる若者）がともに健康的な生活をおくるために必要なことは何か考えてみましょう。

Table with 2 columns: 番号 (Number), 理由 (Reason)

04 日本が「超高齢社会」になるか？



上記画像：https://2020.etic.or.jp/agenda/agenda04/ https://2020.etic.or.jp/agenda/agenda05/

問、右の「食糧」について、【資料2】を参考にしてSDGs17の目標と関係している番号をあげ、その理由を述べなさい。

Table with 2 columns: 番号 (Number), 理由 (Reason)

問、限りある食料資源をもちつ、世界の食料不足を解決するにはどうすればいいか考えてみましょう。

Table with 2 columns: 番号 (Number), 理由 (Reason)

03 日本でも起きている食料問題



上記画像：https://2020.etic.or.jp/agenda/agenda03/

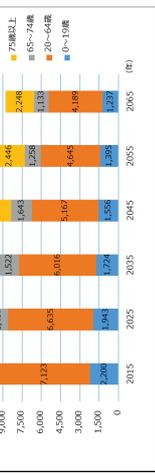
問、右の「高齢社会」について、【資料2】を参考にしてSDGs17の目標と関係している番号をあげ、その理由を述べなさい。

Table with 2 columns: 番号 (Number), 理由 (Reason)

問、高齢者と現役世代（いわゆる若者）がともに健康的な生活をおくるために必要なことは何か考えてみましょう。

Table with 2 columns: 番号 (Number), 理由 (Reason)

05 チャンスに変わるか？ 人口減少



上記画像：https://2020.etic.or.jp/agenda/agenda04/ https://2020.etic.or.jp/agenda/agenda05/

問、右の「食糧」について、【資料2】を参考にしてSDGs17の目標と関係している番号をあげ、その理由を述べなさい。

Table with 2 columns: 番号 (Number), 理由 (Reason)

問、限りある食料資源をもちつ、世界の食料不足を解決するにはどうすればいいか考えてみましょう。

Table with 2 columns: 番号 (Number), 理由 (Reason)

03 日本でも起きている食料問題



上記画像：https://2020.etic.or.jp/agenda/agenda03/

問、右の「伝統文化」について、【資料2】を参考にしてSDGs17の目標と関係している番号をあげ、その理由を述べなさい。

Table with 2 columns: 番号 (Number), 理由 (Reason)

問、人工知能 (AI) などの技術革新が、伝統文化の継承・保護にどのような貢献をさせるか考えましょう。

Table with 2 columns: 番号 (Number), 理由 (Reason)

19 伝統文化・技術をどう継承するか



上記画像：https://2020.etic.or.jp/agenda/agenda19/

問、右の「自然災害」について、【資料2】を参考にしてSDGs17の目標と関係している番号をあげ、その理由を述べなさい。

Table with 2 columns: 番号 (Number), 理由 (Reason)

問、災害に強いまちづくりに向けて、必要なことは何か考えましょう。

Table with 2 columns: 番号 (Number), 理由 (Reason)

22 自然災害大国日本



上記画像：https://2020.etic.or.jp/agenda/agenda22/

Step 5 : グループ内でミニプレゼンをしてみよう。

メモ (ビジネスのタネとして真似できそうなアイデア)

Blank area for student notes.

【資料1】共通価値の創造とは~CSR? CSV?

(1) 共通価値とは? 一般に、CSRとは「企業の社会的責任」と訳され、社会の目的や価値に照らしての...

Table comparing CSR and CSV. CSR: Corporate Social Responsibility, 社会的責任, 善行. CSV: Creating Shared Value, 共通価値の創造, 企業と地域社会が共同して価値を創出...

シナズンナップ、フィランソロビー (社会貢献活動)、持続可能性... 競争に不可欠... 利益の最大化とは別物... テーマは、外部の報告書や個人の嗜好によって決まる...

↑Harvard Business Review, 2011年6月号「共通価値の戦略」マイケルE.ポーター

【資料2】SDGs

2015年9月、国際連合の総会にて「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、その中心は、17の目標と169のターゲットからなる持続可能な開発目標です...



参考① 吉野興業株式会社は、食団や格差など世界が抱える課題解決を目指して国連が掲げている持続可能な開発目標「SDGs」... 参考② 吉野興業株式会社は、食団や格差など世界が抱える課題解決を目指して国連が掲げている持続可能な開発目標「SDGs」...



↑https://www.yoshimoto.co.jp/sdgs/movies.html

1) 前半の学びを終えて

()分野の学び
学習内容:
自己評価:(低)【 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 】(高)
上記評価理由:

2) 学びの共有 (グループワーク)

グループワーク① メモ 同じ学び分野の人の報告
他の学び分野の人の報告
グループワーク② メモ 同じ学び分野の人の報告
他の学び分野の人の報告

3) 学びの共有 (クラス全体報告)

同じ学び分野の人の報告
他の学び分野の人の報告

4) 学びのまとめ (前半の学びについて)

5) 学びのイメージ (後半の学びについて)

6) 自己振り返り (起業マネジメント以外も可)

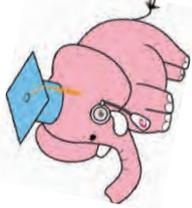
(1) 頑張っている自分を褒めてやりましょう

(2) 少しさぼり気味の自分にアドバイスを (I've been lately slacking...)

3年起業創造科

起業マネジメント-マネジメント分野-

- 【注意】
- ① 授業の進捗により、問いの全てに取り組むとは限りません。
 - ② わからない言葉などが出てきた場合は授業前や後に各自で調べること。
 - ③ 何も考えないままに「わかりません。」「できません。」「は禁止です。」
 - ④ 日付も正確に記入し、授業を欠席した場合は後日取り組んだ日付を記入すること。
 - ⑤ 誰かが読める丁寧な字で記入すること。



3年 組 番 前

① 次にあるセリフは左上の1枚目のものと、2枚目以降はどのようなストーリーなのか絵から説明してみましょう。(個人)

【1枚目】ケイくんのお父さんは宇宙旅行のためのロケットを開発しています。リーダーとしてみなさんと協力しながら一生懸命お仕事をしています。お父さんはいつも目をキラキラさせていました。



<https://teamwork.cybozu.co.jp/blog/stole-teamwork.html>

② 場面ごとに分担してチームでストーリーを作りましょう。なお、18枚目はオリジナルで考えてみましょう。

【1枚目】ケイくんのお父さんは宇宙旅行のためのロケットを開発しています。リーダーとしてみんなと協力しながら一生懸命お仕事をしています。お父さんはいつも目をキラキラさせていました。	【2枚目】	【3枚目】	【10枚目】	【11枚目】	【12枚目】
【4枚目】	【5枚目】	【6枚目】	【13枚目】	【14枚目】	【15枚目】
【7枚目】	【8枚目】	【9枚目】	【16枚目】	【17枚目】	【18枚目】

1. チームとは

本題に入る前に、頭を柔らかくしましょう！

(1) 絵本『にまつたごまつた。チームワークがなくなっちゃった。』サイボウズ チームワーク総研 (2019)「あるひ せかいに チームワークどうぼうが あらわれました。」



(2) チームとは何か
高校入学後に所属している(していた)チームを8つ考えてみましょう。

チーム

チームとクラブ。何が違うか？
チームもクラブも、人の集まりであることは変わりありません。集団を形成しています。「目標」はあります。存在目的は、おそらくそのクラブの憲章か何かで書かれているはずです。クラブにも、「目的」はあります。しかし、明確な年次目標や、3年間で達成する目標などは持っていません。クラブ運営のために、どれだけの資金を集める、といった目標はあるかもしれません。チームというのには、「目標」に主眼はあっても、「目標達成のために、目標がなければチームは成り立ちません。」「目標達成のために、集められ、形成され、活動するものがチーム」と言っても過言ではありません。形成され、活動するものがチームであるためには、「チームとして何を達成するか」を、明確にチームメンバーが意識している必要があります。

新井隆幸 (2020) 『集まる目的があるチームをつくる』株式会社デザインカクテル・トラエンティワン P100-104

○ 「目的」と「目標」の違いは何か上記の文献を読み、考えてみましょう。

【1枚目】ケイくんのお父さんは宇宙旅行のためのロケットを開発しています。リーダーとしてみなさんと協力しながら一生懸命お仕事をしています。お父さんはいつも目をキラキラさせていました。



新井隆幸 (2020) 『集まる目的があるチームをつくる』株式会社デザインカクテル・トラエンティワン P62-63

○ どのような問題が起きますか？

○ どのような問題が起きますか？

チームとは、あくまでも「チームとしての目標」を持っていて、その達成に向けてメンバーが動いているからそのチームなのです。

(3) 共創とは何か

仮に、チームの全員が「自分の目標」を達成し、例えて言えば、<1+1+1=3>になつたとしても、こうなつたとしても「チーム」であるとは言えない。「個人事業主の集まり」だと思つて、「集団」であつて「チーム」ではない。そこにはいわゆる「シナジー」がないからです。「2つ以上のものを互が、相互に作用し合い、1つの効果や機能を高めること」が「チーム」であるなら、<1+1+1>が、4やら5になつていかなければならない。少なくとも、「チーム」として機能すれば、<1+1+1>の和は3より大きくなるでしょうし、逆に機能しなければ、3より小さくなることさえあります。

つまり、チームは「共創」しているわけだけ。共創とは何かを一緒に創り出している。部分の総和が全体をなれば、チームだからチームとしての集まりの意味があります。部分の総和が全体をなれば、チームとして機能しているとはいへません。

部分共創 (2020) 『起業家共創する組織チームをつくる』株式会社エンブレム P45-46

○ あなたが所属するゼミ(課題研究)がチームになるために、どのように共創するか具体的に考えてみましょう。

(4) 集まりのつながり

「チーム」以外で人の集まりに与えられる言葉を複数あげてみましょう。

Blank box for writing words related to group dynamics.

「チーム」という言葉は「人の集まり」にどんなニュアンスを与えているでしょうか。「私たちチームだよね」と言います。そこには「私たちは、つながりがあるよね」「気持ちがあつたよね」というニュアンスが含まれているように思えます。実際「私たち○○だよね」「私たち○○だよね」とは、あまり聞きません。単に人の集まりの形式を表す言葉ではなく、「集団」としての性質を内包している表現ではないかと思えます。「気持ちや感情のつながりがある集まり」がチームであり、逆に言えば、チームという名称を使っているというだけでもありません。暗黙のうちに期待されているというようにもなりません。日本代表が「OneTeam」を掲げて結果、ベスト8を成し遂げました。日本代表が「OneTeam」を掲げて結果、ベスト8を成し遂げました。日本代表が「OneTeam」を掲げて結果、ベスト8を成し遂げました。

目標に向かつて一丸となるために、ジェイミー・ジョセフ監督が打ち出した標語です。そもそもラグビーチームは、チームであるし、チームでないといけないわけですが、あえてそこにOneと付け加えたところに、監督の「つながりへのこだわり」が感じられます。

部分共創 (2020) 『起業家共創する組織チームをつくる』株式会社エンブレム P47

○ 起業家共創がチームになるために、ラグビー日本代表のような標語を考えてみましょう。

Blank box for writing a slogan for a startup team.

2. マネジメントとは何か

これまで聞いたことある「〇〇マネジメント」or「マネジメント〇〇」等を複数あげてみましょう。

Blank box for listing management terms.

さて、前ページまでは「チーム」とは何かについて考えてきました。「他者を通じて事を成す (Getting things done through others)」という表現があります。私たちに、得意不得意があり、一人では限界があります。もし、他者と協力して働くことで、不得意なことをたがいに補うことができ、得意なことを上手く兼ねることができれば、個人が持つ多様な能力を社会のためにより効果的に発揮することができると考えます。

一方で、managementは「経営」「管理」なども訳され、その立場(役職)ではない(にはならない)から関係ないと思われがちです。組織の種類や役職の違いにかかわらず、マネジメントが必要とされるのです。協働がある場には必ずマネジメントが必要であり、そこにマネジメントを担う人が存在するのです。

○ マネジメントとは何か30字以内で定義づけしてみましょう。

Table for defining management in 30 characters.

○ 共有しましょう。

Blank box for sharing definitions.

(1) マネジメントの父 [資料1]

「知の巨人」「マネジメントの父」と称されたピーター・F・ドラッカー氏。「マネジメント」の概念を考えたとはいわれています。

マネジメン: 組織に成果をあげさせるための道具、機能、機関

マネージャー: 組織の成果に責任を持つ者



P.F.ドラッカー (1909) 『明日を支配する60の21世紀のマネジメント革命』ダイヤモンド社

つまり、組織に成果を上げさせるための仕組みやツールをマネジメント、組織が成果を上げようとして働きかけ、責任を持つ人をマネージャーとしています。また、2009年に初版が発行され、映画やアニメにもなり話題となった『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』という岩間隆海氏の著書があります。ドラッカー氏のエッセンスと青春小説としても読める一冊でビジネス書としても、大学の入門書としても有名です。

○ マネジメントの役割 「マネジメントには、自らの組織をして機能させ、社会に貢献させるうえで三つの役割がある。それら三つの役割は互換であるが同じように重要である。第一に、企業、病院、大学のいずれであれ、自らの組織に特有の目的と氏名を果す。第二に、自らが生産的なものにして働く人たちに成果を上げさせる。第三に、自らや社会に与える影響を処理することにも、社会の問題解決に貢献する。」

つまり、社会に対して意味ある活動を行う組織についても、そこに属する人たちが動かし、成果を上げることがマネジメントの役割と言えます。また、P.F.ドラッカーは人間学であり教育であるとも述べています。

P.F.ドラッカー (2001) 『マネジメント』エッセンシャル版』ダイヤモンド社

(2) ビジネスの創造



どんなビジネスをします?

ビジネスでは、物を作る、サービスを売る、あるいは提供することです。ビジネスは、人々が必要とする商品やサービスをお金と引き換えに提供するということです。



ビジネスってなんだろう?

星台の店主であれ、何千何人の社員が働く有名な企業であれ、すべてのビジネスの基盤は、人々が必要とする商品やサービスをお金と引き換えに提供することです。

ビジネスを成功させるには、かかった経費を上回るお金、つまり利益をうまなきゃならぬんだ。

これもビジネスかも…… 銀行…… ホテル…… 農家……

お菓子を売って…… オンスライスタ……

この靴店には、この靴店には、この靴店には……

(3) ビジネス・モデル

ビジネスの創造の中でビジネス・モデルが重要で、ビジネス・モデルとは「企業価値を高める」「事業で収益を上げる」などを現実にするための論理的な仕組みのことをいいます。6つのモデルを紹介いたします。それぞれ事例をあげてみましょう。

- 1 物販モデル 「商品を生産し、それを販売する」ことから、商品の対価を得るビジネス・モデルのこと。
2 小売モデル 商品を仕入れ、それを販売するというビジネス・モデルのこと。
3 広告モデル ターゲットである多数の顧客に対して無料でサービスを提供し、広告費によって収益を上げるというビジネス・モデルのこと。
4 従量課金型モデル 従量課金とは、使用した量に従って料金が発生するというビジネス・モデルのこと。
5 提供されるサービスに月額料金を支払うというビジネス・モデルのこと。
6 フリーミアムモデル フリーミアムとは無料で顧客の注意を引きつけながら、そこから有料ビジネスへと発展させていくというビジネス・モデルのこと。

中山康洋(2020) 『地方産業の教科書』株式会社おさ出版 P44-47

ビジネスは、単なる思いつきとは異なる「創造力」が大切になります。創造力は伸ばせる。これは、繰り返し伝えていきます。日々の違和感や発見がビジネスのスタートになるかもしれません。上回るお金、つまり利益を生む活動でなければなりません。また同時に地域社会(暮らし)をより良くする、一方でボランティア活動はありませぬ。これがビジネスの創造(起業創造)ともいえます。そして、これらのプロ세스で、個人や組織、様々な立場の人が協働している。そこに、これらのプロ세스の重要性があるのです。

さて、改めて「ビジネス」とはあなたはどういうように定義づけするか考えてみましょう。

Blank box for defining business.

☆マネジメント分野 自己（相互）評価シート

～チームのために一歩踏み出し行動できるか～

(1) 学びの前（1～2時間目） ※いずれか一つに○を記入する。

記入日： ____月 ____日（ ____ ） ____限

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
一歩踏み出す行動ができない	一歩踏み出そうと行動している	自らの創造力で一歩踏み出そうと挑戦している	自らの創造力で一歩踏み出そうと行動ができる	既存の枠組みにとらわれず、一歩踏み出す行動ができる

(2) 実習における貢献度及びループリック（3時間目）

記入日： ____月 ____日（ ____ ） ____限

※自分以外のチームのメンバー（3～4名）を記入する。
貢献度1が高く、4が低い。

貢献度	ループリック	番号	名前
1	レベル		
2	レベル		
3	レベル		
4	レベル		

(3) 4時間目以降の変化 ※毎時間終了後、いずれか一つに○を記入する。

記入日	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
__月__日 (____) __限					

(4) マネジメント分野を振り返って

※成長できたこと、これから見直すべきことは何か具体的に記入する。

3年起業創造科 起業マネジメント マネジメント分野Ⅱ

- 【注意】①授業の進捗により、問いの全てに取り組むとは限りません。
 ②わからない言葉などが出てきた場合は授業前や後に各自で調べること。
 ③何も考えないままに「わかりません。」「できません。」「は禁止です。」「
 ④日付も正確に記入し、授業を欠席した場合は後日取り組んだ日付を記入すること。
 ⑤誰かが読める丁寧な字で記入すること。
 ⑥学科コンセプト「**起業家精神で地域社会をデザインする**」を常に意識すること。



3年 組 番 前

☆ マネジメント分野Ⅰでは？

1. チームとは
 - (1) 絵本『ごまごま』があった。チームワークがなくなった。』
 - (2) チームとは何か
 - (3) 共創とは何か
 - (4) 気持のつながり
2. マネジメントとは何か
 - (1) マネジメントの父
 - (2) ビジネスの創造
 - (3) ビジネス・モデル
3. ビジネスの組織化
 - (1) 組織形態
 - (2) 組織内部のマネジメント

はじめに扱った絵本『ごまごま』があった。チームワークがなくなかった。』の発行元は「サイボウズ株式会社」です。少しだけ会社概要を確認してみよう。

会社概要

所在地	〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1
代表取締役	藤原 洋一
設立	1997年7月
資本金	100,000,000円
従業員数	1,000名以上

企業理念

Purpose (存在目的) Culture (文化)

- 理想への共創
- 多様な個性を重視
- 公認正社員
- 自主と自決

グループウェア (企業などの組織に所属する人々のコミュニケーションを円滑にし、業務の効率化を推進するためのソフトウェア) 事業、メソッド (方法、手法) 事業の2つに事業を中心に行っているIT会社です。オンラインワーク授業、テレワークとコロナ禍で聞き慣れた感があるかもしれません。しかし、コロナ前から欠かせない事業をされています。今後、就職すればサイボウズの製品を使う、出会う場面があるかもしれません。

一人で考える (できる) ことにはどうしても限界があります。それがチームになることで、新たな視点を受け入れながら、「あてもないけどどうでもない」と言葉を変えながら、物事を進めていく (課題を解決していく)。このような場面にごれから何度も出会うこととしてよう。

場面ごとに逐々「正しい答え (解決方法)」はありません。簡易なものあれば、複雑なものもあります。このような社会で生きていく中で、「マネジメント」というのは必須な知識や力ともいえます。

managementは「経営」「管理」なども試されることから、立場上関係ないと捉えられがちですが、そうではありません。

マネジメント分野Ⅰでは、チームやマネジメントを細かく掘り下げながら、ビジネスの創造からモデル (仕組み) の事例を学んでいきました。そして、大谷選手 (高校時代) のマンタラカードの事例に、「憧れの自分 (目標) 設定」を作成するワークをしました。

マネジメント分野Ⅱでは、『チームワーク』というキーワードで掘っていきます。はじめに、参考文獻である本の概要動画を見てみましょう!

メテ

【注】 授業中に「正しい答え」を求めず、自分自身の考えを大切にすることが大切です。

4. チームの病

5つの病を確認しましょう。(P24~26)

病1: チームワークの目的が不明

「チームワークの目的が不明」は、チームの目的や目標が不明であること。チームの目的が不明だと、メンバーは自分の役割や責任を把握できず、チームの方向性が不明になる。結果として、チームの生産性が低下し、メンバーのモチベーションも低下する。

病2: チームワークのメンバーが不明

「チームワークのメンバーが不明」は、チームのメンバーの役割や責任が不明であること。メンバーの役割や責任が不明だと、チームの生産性が低下し、メンバーのモチベーションも低下する。

病3: チームワークのメンバーが不明

「チームワークのメンバーが不明」は、チームのメンバーの役割や責任が不明であること。メンバーの役割や責任が不明だと、チームの生産性が低下し、メンバーのモチベーションも低下する。

病4: チームワークのメンバーが不明

「チームワークのメンバーが不明」は、チームのメンバーの役割や責任が不明であること。メンバーの役割や責任が不明だと、チームの生産性が低下し、メンバーのモチベーションも低下する。

病5: チームワークのメンバーが不明

「チームワークのメンバーが不明」は、チームのメンバーの役割や責任が不明であること。メンバーの役割や責任が不明だと、チームの生産性が低下し、メンバーのモチベーションも低下する。

「目標って何だった？」病	役割分担したはずのタスクがまったくつながらない病	フィードバックより仲良し病
振り替えれば誰もいない病		最後はいつもしりとり病 巻き取り病

○シーンを具体的に記入 (いつ、どこで、チームの内容 (所属 (現在形) / 所属していた (過去形) ても可)、チームでの私の私 (立場など))

コロナ禍でこれまでのビジネスモデルや日本型雇用システムが、足枷(あしかせ)ともなっています。

Q. 日本型雇用システムで知っていることをあげてみましょう！



https://youtu.be/kH5E/VnM4MwU

多くのひとびとが、自分のキャリアや働き方に不安や戸惑いを感じ、混乱しています。私たちはこれをVUCAの時代、VUCAの典型的な症状を挙げてみます。

①②③それぞれその雰囲気がある職場で「身ななな働いている」と想定して、どのような行動を促すか、理由も踏まえて考えてみましょう。

5. チームワーク

Teamworkingとは「Team(メンバー全員)」が主体的にチーム活動に取り組む、チーム自身が目標に向けてダイナミックに変化し続けるから、成果創出を促して「Working(働いている)」としている状態を示す概念です。

では、なぜ「チームワーク」という言葉を著者は主張しているのか考えていきます。

- (1) VUCA
Volatility (変動性・不安定さ)
Uncertainty (不確実性・不確定さ)
Complexity (複雑性)
Ambiguity (曖昧性・不明確さ)
4つのキーワードの頭文字から取った言葉で、現代の経営環境や個人のキャリアを取り巻く状況を表現するキーワードとして使われています。



https://www.dadaoj.com/content/201_222_vuca/

マネジメント分野Iでも、「リーダーシップ」については確認しました。成果の出るチームの中で「リーダー」の役割や影響はあるでしょう。

大嶋 啓介 (おおしま けいすけ) 氏
1974年、三重県桑名市生まれ。2004年、居酒屋から日本を元気にすることを目的に居酒屋「てっぺん」を設立。てっぺん独自の「公開朝礼」がテレビや雑誌等で取り上げられ、話題となり、日本国内だけでなく韓国や台湾など、海外からも多くの方が「本気の朝礼」を見学に訪れている。



https://oshimakeisuke.com/profile/



https://youtu.be/rF7W23dD5_g

Q. 成果の出るチームと「成果の出ないチーム」の特徴を考えてみましょう。

Table with 2 columns: '成果の出るチーム' and '成果の出ないチーム'.

① 「あの、何の仕事をしてるんだっけ？」症候群
② 「ここらへんから働いてるのになんか怖いな」症候群



サントリーHD・新浪剛史(にいなみただけし) 社長の「45歳定年制」について、あなたはどのように考えますか？



https://youtu.be/ySu154r-CHts

【社説】「45歳定年制」が問う学び直し
◆(9月)9日の経済同友会のセミナーでサントリーホールディングスの新浪剛史社長が「45歳定年制」を唱え、波紋を広げた。定年という言葉遣いは「嫌さな」を意味する意図を込めた意図がある。

- ◆定年を巡っては専大の柳川範之(やなぎわ のりゆき)教授が唱えた「40歳定年制」を提唱してきた。技術革新が進んでおり、自分のスキルを刷新し、より高度な仕事に就けるよう備えるべきだという主張である。新浪氏の発言はその延長線上にあるとみるのが妥当。
◆重要なのは40~45歳で安心して転職できる環境を整えることだ。
◆大企業はデジタル戦略などで中途採用を増やしており、新卒一括採用で長期にわたり人材を育てる日本の雇用慣行は崩れつつある。「ジョブ型」雇用で専門性を求めるニーズが強まっている。
◆働き手はよりよい待遇を求めてリスキリング(学び直し)に取り組む必要がある。能力が向上すれば労働市場での価値が高まり、社内外で活躍の機会には広がる。
◆企業も社員が学ぶ意欲を高められる環境を整備すべきだ。どんなスキルを高めればどの職種に就けるか明示する必要がある。収入が上がれば学ぶ意欲も増す。欧州企業のように「サバカル体罰制度」を撤廃し、大学院などで学ぶよう検討したい。
◆「パーソル総合研究所の調査によると、若い世代ほど人事評価でシニア社員に対する不公平感が強い。年功序列を廃止し、能力を適正評価することが不可欠。
◆経営層についても人材の流動性を促す必要がある。事業再編を大胆に進めるために、しごらみのない外部人材を積極活用したい。
◆政府は流動性の高い労働市場づくりを急ぐべきだ。人口減が進むなか、成長分野へ大胆に労働移動させることが欠かせない。公共職業訓練の内容を企業ニーズに照らし、転職しやすい人材を育成し、ハローワークも民間ノウハウを活用し、紹介機能を強化する必要がある。

https://www.nikkei.com/article/DGXSZ00DK175WP0X10C21A90000017

① 「うちの会社って何の会社だったっけ？」症候群
Q. 上のマークは何をしている会社ですか？



https://global.toyota.jp/mobility/toyota-brand/features/emblem/

現代の組織は、もはや、自分たちが「何屋」であり、何をしていくのかを、日々、市場の変化に伴いアップデートし続けなければならない使命を帯びています。「組織としての目標」も「組織のめざすもの」も、日々、さまざまな変化に応じて、自ら再定義し続けなければならない時代となっているのです。

- ① 「うちの会社って何の会社だったっけ？」症候群
経営環境の変化に対応するために、これまで考えられなかったような企業と手を組んで事業統合をしたり、かつてないほどのスピードで事業の撤退を意思決定したりと、目まぐるしい動きで事業の車輪が進んでいます。そうした自社の経営状況を自問自答して、当事者(組織の一員)であるはずの従業員が自分の会社はいつまでこのままを続けているのか?と、会社のためでするものを見失ってしまうという現象です。特にこの1~2年ほど増えているように感じます。
② 「あの、何の仕事をしてるんだっけ？」症候群
人材の流動化や働き方の多様化、仕事の個性化、さらにはリモートワーク(テレワーク)の進展などにより、顔をつき合わせてコミュニケーションする機会が減り、気づけば、隣の席に座っている人がどんな人か、何をやっている人なのかも分からなくなってしまうという現象です。この現象は、業種にもよりますが、近年の急激なリモートワークの普及などにより、今後ますます増えていくように感じます。
③ 「ここらへんから働いているのに気が付いている」症候群
めざすべき目標を見失うのは、会社に対してだけでなく自分自身でもありません。ビジネスのスピードが加速し、目まぐるしい変化の波に乗り遅れまいと、日々、忙しく働く一方で、自分のキャリアや仕事においていてもめざすべき目標を見失い、さらには職場でのコミュニケーションも希薄になってしまったり、モチベーション、やる気が失われてしまう、という現象です。
④ 「ここらへんから働いているのに気が付いている」症候群
めざすべき目標を見失うのは、会社に対してだけでなく自分自身でもありません。ビジネスのスピードが加速し、目まぐるしい変化の波に乗り遅れまいと、日々、忙しく働く一方で、自分のキャリアや仕事においていてもめざすべき目標を見失い、さらには職場でのコミュニケーションも希薄になってしまったり、モチベーション、やる気が失われてしまう、という現象です。

VUCA時代の今、日本の職場の多くが、①自分たちがどこへ向かっているのか分からず、②周囲との関係も希薄で、③やる気も起きない……このような不安定な状態では、組織は外に向き、ひとびとの心は組織から離れがちです。どうしても組織の内側へ向く(求心力)よりも、外へ向く力(遠心力)の方が大きくなります。求心・中心に動かして近づくこと(近導心)ふわふわと離れつつあるメンバーたちの心を何とか緊正めて、求心力をつくるためにどうすればいいのでしょうか。

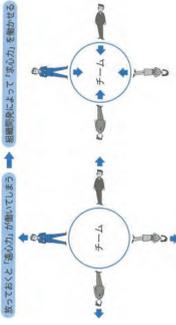


https://youtube/4270QaJL0WY



https://youtube/eu6BjKubq87n=254 (4分14秒~5分35秒)

【Column】「Two pizza team: ツー・ピザ・チーム」アマゾン、ドット・コムに上記のような言葉があるそう。チームで、もっとも生産性や創造性が上がるのは「2枚のピザでみんなの食事が足りるぐらいの小さなチーム」だということです。(P47)



求心力と遠心力、求心力が強いほど、組織の成長が速くなる

求心力を高めるために、組織全体ですべてをこころとして「組織開発」という方法があります。組織開発(「Organization Development」(略してOD))とは、近年、注目されている以下のような組織変革の手法です。組織開発とは、

- 1) 組織が抱える課題を調査などによって、「見える化」し、
- 2) そのデータを組織メンバーで共有し、「対話」を行い、
- 3) 自分たちの組織のあり方を自分たちで決めていくこと

(P46~47)

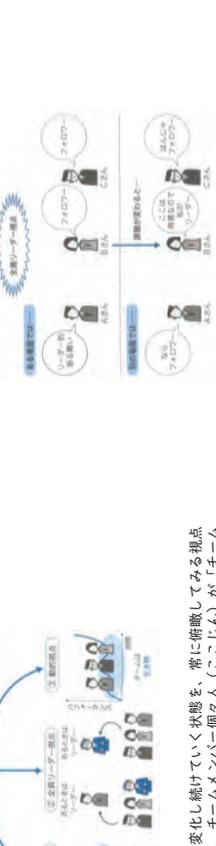
決して、チームを「静止したもの」と捉えてはいけません。チームはまさに「生き物」のように常に動き続けているのです。(P54)

(中略)

リーダーのみの独力で、チームを牽いでいくことは、不確実性の高い現代の社会では実に難しいのです。むしろ、これからはチームメンバーが主体的に動き、自らのチームの動きや成果に「当事者意識」を持つ初めて、チームは高い成果を出せるのです。(P48)

メモ

(2) チームを見つめる3つの視点 No.22で「成果の出ないチーム」と「成果の出ないメンバー」について考えてもきました。特に、常に刻々と変化し、チームの構成メンバーの貢献によって「常に変わり続ける(～ing)」ものなのです。成果を出していくためには、まず、チームを「チームワーク(チームに対する見立て)」の視点で捉え、「常に動き続けるもの、常に変わり続けるもの(～ing)」だと認識していることが極めて重要です。(P65)



① 「チーム視点」とは チームがダイナミクスに変わり続けていく状態を、常に俯瞰して見る視点のことです。平たくいえば、チームメンバー個人々人(こころじん)が「チームの全体像」を常に捉える視点を持つことです。

② 「全員リーダー視点」とは 文字通り、機会があれば、全員が「リーダー」になりうるという前提で、当事者意識を持ってチーム活動に貢献する視点です。

③ 「動的視点」とは 「チームワーク」においては最も重要で、これは、チームメンバーも事業内容や市場環境も大きな変化がなかった時代においては、あまり重視されていなかった考え方やです。

④ たかが「視点」されど「視点」 チームをいかに見立てるか、と興味で、メンバー全員にこれら「3つの視点」が共有されていなければ、どれどチームが前のめりな行動を取ろうとも、うまくいきません。チームワークの状態で持っているためには、チームメンバー全員が「3つの視点」をしっかり理解し、共有することが非常に重要です。

(P66~80)

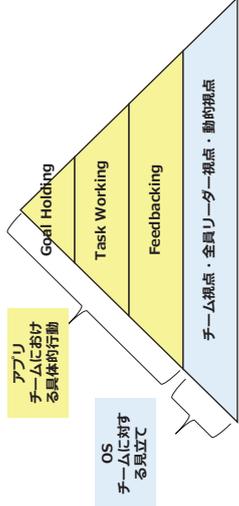
⑤ 3つの視点から知らず知らずのうちに「自己中心性バイアス」「スキヤニング(Scanning)」「自己中心性バイアス」「シェアード・リーダーシップ(shared leadership)」

(3) チームワークを生み出す3つの行動原理 人間とは、アクション、ポイント、セットの行動の循環、基礎となる「オレインディングシステム(OS)」のようものです。しかしながら、実際の仕事はOSが行うのではありません。基礎となるOSの上でアプリケーション(アプリ)が動くことが重要です。(P82)

① Goal Holding (ゴール・ホルディング)：目標を握り続ける チームで活動を進めるにあたって、まずはゴール設定をする、ということが基本となる。(中略) しかしリアルな社会においては、いくらこれらの条件を満たした目標を設定しても、それだけでは成り立ちません。重要なことは、チームメンバー全員が「目標を握っている状態」を維持していくことです。(P83~84)

② Task Working (タスク・ワーキング)：動きながら課題を探し続ける チームで目標を設定したら、次は、目標を達成するための課題解決を行うべくフェーズ(段階、局面)に入ります。既存の課題解決は、「課題とは設定された目標(理想)と現状とのギャップのこと」を指し、そのギャップを埋めることが課題解決である。2つめは「課題解決で最も重要なことは、まず解決すべき課題とは何かを最初に考えてから「課題設定」してから、課題解決に向かうことである」と記されています。しかし、「陥りがちな罠」があります。(P86)

Q. 「陥りがちな罠」を考えてみましょう。 これらのOSとアプリは、チームで活動する際のベースとなる基礎スキルなのです。(P221)



タスク・ワーキングとは、「解くべき課題を探し続けること」を言います。そのプロセスは、最初は「仮決め」でもよいので、大まかな課題の方向性を定め、何らかの採算を行ってみて、折に触れて振り返り「これでいいのか? ちよと違うかな?」と修正しては、またやってみることを。(P87)

③ Feedbacking (フィードバック)：相互にフィードバックし続ける このことのフィードバックとは、「チームの状態・行動・成果について、耳の痛いことも含めて、自分が何を感しているかを、相互に伝え合うこと」です。上も下も日本の職場は、長期的に形成された人的ネットワークの下、必要以上のコミュニケーションを取らなくても、チームの暗黙知が共有され、お互いを理解し、察し合う文化があり、あうんの呼吸で作業をすることができています。(中略) それは、製造現場では、「すり合わせ力」と言われています。(中略) スズした認識がいくらメンバー間で共有されていたとしても、それらはチームの成果につながらないということです。言われてみれば当然のことですが、これまで「あうんの呼吸」「暗黙知」で仕事を進めてきた日本のチームが昨日しなくなっている現状を考えると、(P88~91)

6. モデルなき時代 (1) 「安心」を「信頼」から 「チームワーク」も「グループ」も、それぞれ従来の日本企業の中には「部」も「課」も「グループ」も、それぞれ加減的に速くなる社会で生きていくべきです。そこで、求められるのが「課題解決」や「価値創造」、そして誰もが必要とする「起業家精神」です。最後は、総合政策学教授 深尾 昌峰(ふかおまさたか) 教授の動画を観て、まとめたいです。 https://www.policy.nyuku.ac.jp/teacher/fukao.html

(2) 価値創造 マネジメント分野では、「チームワーク」というキーワードから掘ってききました。みなさんは、これから、社会が激変し、変化のスピードも加速度的に速くなる社会で生きていくべきです。そこで、求められるのが「課題解決」や「価値創造」、そして誰もが必要とする「起業家精神」です。最後は、総合政策学教授 深尾 昌峰(ふかおまさたか) 教授の動画を観て、まとめたいです。 https://www.policy.nyuku.ac.jp/teacher/fukao.html



メモ

2020年代の今、日本企業は劇的に変化しています。経団連の会長が「もう終極雇用を守れない」と発言するなど、日本型雇用システムは限界を迎えつつあり、かつて同質的なメンバーだけが暮らしていた時代には、多様な人たちが集まるようになってきました。そこでは、たどられた人生と異なる道を歩む人たちが、課題解決をしながら共に、課題解決をしようとしています。(中略)

今、我が国は、制度や仕組みで守られた「安心社会」から、個々で「信頼」を勝ち取る「信頼社会」へと急速に移行しているのだと思います。だとすれば、信頼を獲得するためには、何かが必要でしょうか。それは、端的に言えば、チームに貢献する具体的なアクションを、それ各自がなして続けることではないでしょうか。かくして、今こそ、個々が固くありながらチームを動かすスキル、「チームワーク」の技術が必要になってくるのではないかと思います。(P222~224)



深尾 昌峰 教授 深尾 昌峰 氏 総合政策学教授 深尾 昌峰 氏 総合政策学教授 深尾 昌峰 氏 総合政策学教授

Global Business II オリエンテーション

1. 担当者

3年4組	3年5組	3年6組

2. 授業の概要・目標・教材

キーワードは昨年度のGB Iに引き続き、「じぶんごと化」と「みんなごと化」。

【じぶんごと化：京都の観光ビジネスや途上国の社会課題に当事者意識を持つ】

【みんなごと化：チーム作業を通じて、協働して成果を出す力をつける】

上記2つに加え、2年間のGBの仕上げとして、進路につながるポートフォリオを作成する。

→別紙「GBデザインシート」参照

目標	教材・プロジェクト
観光学の基礎を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ● 「観光学基礎」(JTB 総研) p116-「第7章 様々な観光ビジネス 一宿泊産業」から p276-「第14章 観光と国際経済・社会・文化」まで ・上記内容から、学科や科目の目標に合うものを選んで実施
観光ビジネスに関する英語力を磨く	<ul style="list-style-type: none"> ● 「おもてなしの基礎英語」(NHK) ・ Chapter4 Episode14 から (昨年度の続き)
途上国の社会課題解決ビジネスを探究する	<ul style="list-style-type: none"> ● 「DAC リスト」から各自が1か国を担当し、その国の情報を収集。SDGsに関連する社会課題を解決するためのビジネスを探究し、「みんなごとにする企画」を提案する ・ JICA 関西や JICA 京都デスクと連携し、研修員や協力隊員を招聘 ・ NPO 法人グローバル人材開発センターと連携し、外部講師を招聘 ・ ENAGEED (vol.6 -世界の未来をつくる) を活用 

3. 評価

ルーブリック（別紙）による評価を行う。

→授業中は、常に「この授業でいまどんな力をつけようとしているのか」（目標）を意識すること。

そのほか、年2回の定期考査（1学期末・2学期末）、自己評価、相互評価、提出物、出席状況等により評価する。

4. 毎時間の持ち物

①教科書「観光学基礎」（JTB 総合研究所） →昨年度から継続使用。新学年組番号を書いておく。

②ファイル →昨年度から継続使用。新学年組番号を書いておく。中身は抜いて家で保管する。

※ノートは不要。

5. 実施教室

毎時間、実習室で行う。早めの移動を心がけること。

6. 春休み課題（ポートフォリオ作成）

とても的確に内容をまとめている人や、「こんな力がついたのでこう生かしたい」と具体的に書いている人、自分に足りなかった部分を分析できている人など、「深いポートフォリオ」がたくさんありました。

今後、この内容を共有しながら授業を進めていきます。

なお、未入力者が4/11の18:00時点で7人います。成績に悪影響があるのはもちろんですが、今後の授業で自分が困ります。何よりも自分自身の振り返りと成長の機会を逃しているのがもったいない。まだ入力できる状態にしてあるので、今日中に必ず済ませること。

7. 次回の予定

- ・「学科ルーブリック」をもとに「じぶんルーブリック（3年生版）」を作成する
- ・教科書「観光学基礎」後半の概要を把握する
- ・ポートフォリオの内容を確認する
- ・DACリストを読み解く

2年目を迎えたGB。今年度は、みなさんが日本初の「GBII」の生徒です！



「みんなごと化プロジェクト」オリエンテーション

1年次「じぶんごと化プロジェクト」

- ◆ サブサハラ地域のあしなが奨学生と向島の地域住民を結ぶ「向島まつり」の企画
→2年次に、生徒実行委員が「オンラインクイズ大会」としてコロナ版で実践



2年次「みんなごと化プロジェクト」

- ◆ JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト
- ◆ 青年海外協力隊員による講演会
- ◆ 40億人のためのビジネスアイデアコンテスト
→代表班が、全国から7校が集まったオンライン審査会で発表



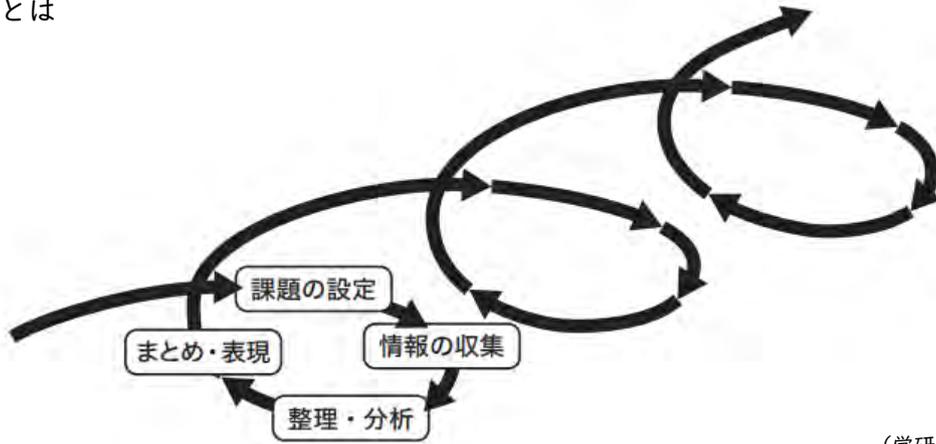
3年次「みんなごと化プロジェクト」

- ◆ 企画科版「世界会議」
DAC リストの中からひとり1か国を担当し、担当国・地域の社会課題を探究した上で、「みんなでなんとかするビジネス」をSDGsの視点から企画提案



一人ひとりの小さな「じぶんごと」が集まって「みんなごと」になり、それが社会を変える大きなうねりに変わっていく。そのきっかけを作る人に、なろう。

0. 「探究」とは



(学研ホームページより)

1. DAC リストとは

(キーワード：OECD、開発援助委員会、ODA)

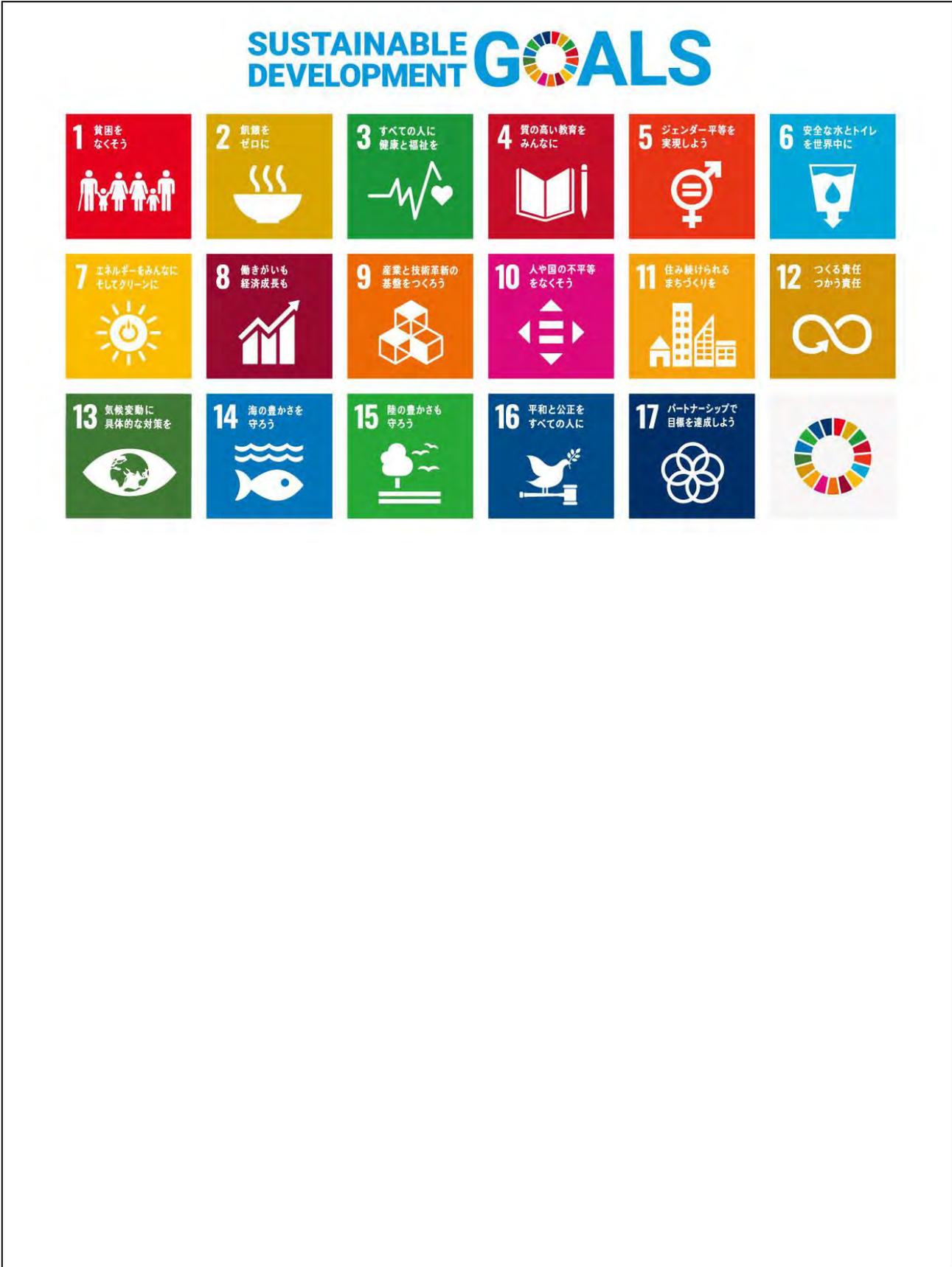
DAC List of ODA Recipients Effective for reporting on 2020 flows			
Least Developed Countries	Other Low Income Countries (per capita GNI <= \$1 005 in 2016)	Lower Middle Income Countries and Territories (per capita GNI \$1 006-\$3 955 in 2016)	Upper Middle Income Countries and Territories (per capita GNI \$3 956-\$12 235 in 2016)
Afghanistan Angola ¹	Democratic People's Republic of Korea Zimbabwe	Armenia Bolivia	Albania Algeria



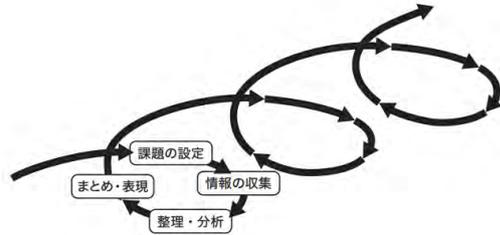
2. 担当国

地域	国番号	国名	担当者番号	担当者
Asia	1	Bangladesh		
	2	Bhutan		
	3	Cambodia		
	4	Lao People's Democratic Republic		
	5	Mongolia		
	6	Myanmar		
	7	Nepal		
Middle East	8	Afghanistan		
	9	Jordan		
	10	Syrian Arab Republic		
	11	Yemen		
Europe	12	Bosnia and Herzegovina		
	13	Uzbekistan		
Africa	14	Botswana		
	15	Ethiopia		
	16	Gabon		
	17	Mozambique		
	18	Niger		
	19	Sierra Leone		
	20	South Africa		
	21	Uganda		
Oceania	22	Micronesia		
	23	Papua New Guinea		
	24	Tonga		
	25	Tuvalu		
	26	Vanuatu		
Latin America	27	Bolivia		
	28	Colombia		
	29	Dominican Republic		
	30	Ecuador		
	31	Haiti		
	32	Nicaragua		

3. SDGs とは
(キーワード：国連、2030年、世界)



課題設定・情報収集①



「みんなごと化PJ」で各自が設定する課題は、「担当国の誰かが、いま困っていること」です。
 遠く離れた国で、誰が、どんなことに困っているのか…
 何をどう調べていけば、その困りごとにたどり着くのでしょうか。
 ↑不便・不満・不安・不足・不快・不自由・不条理など

的確な課題を設定するには、的確な情報をたくさん集めることが大切です。
 まずは「情報収集」のプロになろう。

1. 「調べる」を究める

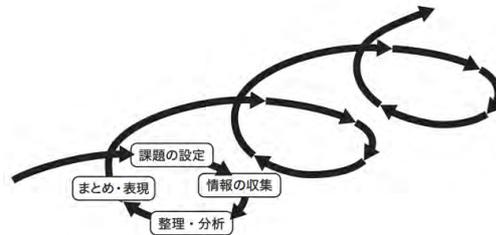
(1) インターネット検索で、外国の情報を効率よく集めるコツは？

(2) インターネット検索で、外国の正確な情報を集めるコツは？

(3) ネット検索以外で、外国の情報を集める手段・方法は？（最低10個）

①その国に行く（今は不可能）	⑪
②	⑫
③	⑬
④	⑭
⑤	⑮
⑥	⑯
⑦	⑰
⑧	⑱
⑨	⑲
⑩	⑳

情報収集②



1. 書籍から情報を集める

インターネット上には膨大な量の情報がありますが、正確性・客観性・学術性・効率性などの観点では、書籍からの情報収集が欠かせません。

本日から6月20日（日）までの間に、担当国もしくは担当地域に関する書籍を1冊見つけて読みましょう。

(1) 書籍の見つけかた

- ①学校の図書館に行く（司書の松本先生に相談する）
- ②地域の図書館に行く（職員さんに相談する）
- ③府立図書館に行く・府立図書館のWEB ページで探す（取り寄せもできます）
- ④書店に行く・書店のWEB ページで探す（オンライン購入もできます）
- ⑤その他

(2) 見つけた本

書籍名：
著者：
出版社：
出版年：

※見つけた本を、以下の授業日に持参してください。確認をします。

なお、できるだけ他の人と同じ本は避けましょう。特に同じ担当国の方は、連絡を取り合って別の本を探すとよいです。

4組	5組	6組
6月22日（火）6限	6月21日（月）4限	6月23日（水）3限



2. 情報を整理する

A large empty rectangular box intended for organizing information.

みんなごと化プロジェクト「企画科版 世界会議」の準備

これまで担当国について、本の紹介をしたり、「訪れたい資料」を期末テストで作成したりしながら、情報収集を進めてきました。

いよいよ2学期からは、世界会議に向けてビジネスプランの作成に入ります。

夏休みは、次の2つを心がけて過ごしましょう。

●アンテナを高くはる。

→担当国をはじめとする、世界のニュース・情報を積極的に集める。

今日、この瞬間も、その国では何かが起こっているはずです。

●問いを立てる。

→集めたニュース・情報を「ふ～ん」「へえ～」で済まさない。

「それはなぜ?」「〇〇と関係があるのでは?」と、疑問を持つ。

この2つを続けながら、以下の情報を整理しましょう。

1. 担当国（英語または現地語）：

2. 担当国（日本語）：

3. 基本情報（人口・面積・首都・言語・宗教・気候・歴史・通貨・経済・産業などのうち、自分が取り上げる社会課題と関連しているものを選んでまとめる）



4. 担当国の社会課題（誰が、どんなことで困ったり苦しんだりしているか）

5. SDGs 番号：

目標：

6. 課題解決に向かうビジネスプラン
（5W2Hをベースに現時点での案を記入する。図解可）

3年 組 番 名前 _____

→ 2 学期最初の GB 授業で提出

「世界会議」概要

1. 「世界会議」について

- (1) DAC リストから1人1か国「担当国」を決める
- (2) 担当国について探究する
- (3) 担当国の社会課題をSDGsと関連付ける
- (4) (3)を解決するビジネスを企画する
- (5) 企画書を作成し、発表する
- (6) クラス内で「代表企画」を決める
- (7) 代表企画に対し、自分ができること・みんなのできることを考える
- (8) ゲストを招いて「世界会議」を開き、(7)を発表・共有する

済

招聘予定：JICA 職員、社会起業家、京都外国語大学 国際貢献学部教授・大学生

2. スケジュール

回	4組	5組	6組	内容
1	9/3(金)2限	9/3(金)6限	9/1(水)3限	説明、企画書作成①
2	7(火)6限		3(金)1限	企画書作成②
3	10(金)2限	6(月)2限	8(水)3限・ 10(金)1限	企画書作成③
4	14(火)6限	10(金)6限	15(水)3限	企画書完成
5	17(金)2限	13(月)2限	17(金)1限	代表企画選考会(地域ごと)
6	21(火)6限	17(金)6限	22(水)3限	代表企画選考会(クラス全体)
7	24(金)2限	24(金)6限	24(金)1限	代表企画のみんなごと化
8	28(火)6限	27(月)4限	29(水)3限	世界会議リハーサル
9	10/1(金)2限	10/1(金)3限	10/1(金)1限	世界会議

3. 企画書について

- (1) 形式 PowerPoint (フォーマットあり)
- (2) 提出 上記スケジュールの「4回目」授業日の18:00(データ保存のみ。印刷不要)
- (3) ポイント(選考基準)

①必要性・社会性	社会で(誰かにとって)本当に必要な企画か
②協働性・当事者性	「じぶんごと」「みんなごと」にできる仕掛けがあるか
③独創性・優位性	オリジナリティや既存のビジネスとの違いがあるか
④実現可能性・収益性	ビジネスとして成立・実現可能か(お金が回る仕組みがあるか)
⑤正確性・綿密性	正確なデータや根拠があり、細部にまでこだわっているか



「世界会議」選考会

各自のビジネスプラン（ソーシャルコンセプト・ソーシャルインパクトを含む）を発表し、地域ごと→クラスごとの2段階で、クラス代表企画を選出します。

1. 選考会スケジュール

グループA：アジア・中東 B：ヨーロッパ・アフリカ C：大洋州・中南米

内容	4組			5組		6組		
代表企画選考会 (地域ごと)	17(金)2限			13(月)4限		17(金)1限		
	A プログ 松尾	B ネット 久保	C マーケ講 小川	国1-16 情シス 橋井	国17-32 ネット 小川	A プログ 土橋	B ネット 新開	C 情総 小川
代表企画選考会 (クラス全体)	21(火)6限			17(金)6限		22(水)3限		
代表企画の みんなごと化	24(金)2限			24(金)6限		24(金)1限		
世界会議 リハーサル	28(火)6限			27(月)4限		29(水)3限		
世界会議	10/1(金)2限			10/1(金)3限		10/1(金)1限		

「家庭基礎」と入替

2. 発表について

- (1) 1人あたり1分30秒～2分で発表する。
- (2) 発表時間が短いので、ソーシャルコンセプト・ビジネスプラン・ソーシャルインパクトを中心に、内容を絞って発表する。

3. 選考基準

- (1) ソーシャルコンセプトが明確か
- (2) ソーシャルインパクトに妥当性があるか
- (3) 以下の5つの基準を満たしているか

①必要性・社会性	社会で（誰かにとって）本当に必要な企画か
②協働性・当事者性	「じぶんごと」「みんなごと」にできる仕掛けがあるか
③独創性・優位性	オリジナリティや既存のビジネスとの違いがあるか
④実現可能性・収益性	ビジネスとして成立・実現可能か（お金が回る仕組みがあるか）
⑤正確性・綿密性	正確なデータや根拠があり、細部にまでこだわっているか

GLOBAL CONFERENCE PROPOSAL

世界会議 企画書

3年●組●番 ●●●●



1. COUNTRY

※これを削除し、担当国について、地図や基本情報を入れる

※写真や図表は著作権や肖像権に注意し、使用する場合は必ず出所を明らかにする（右下に明記）【以降同様】

※スライドを複製して枚数を増やしてもよい【以降同様】

2. SOCIAL CONCEPT

(1) ISSUE and CAUSE <課題とその原因>

※担当国の中でも、**どこの誰がどう困っているのか**を細かく具体的に書く

※現状だけでなく、なぜその状態になっているのか**(原因)**も突き止める

2. SOCIAL CONCEPT

(2) GOAL <実現したい姿>

※(1)の人が、こんな姿や状態になっている！という**理想**を具体的に書く

2. SOCIAL CONCEPT

(3) MEASURE <原因への対策>

※(3)の理想を実現するために、(1)の原因に対して**どんな対策が必要か**、ビジネスアイデアの概要を書く

3. BUSINESS PLAN

(1) PRODUCT <商品・サービス>

※ここからは具体的なビジネスプラン！

常に意識すべきポイントは、次の5つ。

①必要性・社会性 ②協働性・当事者性 ③独創性・優位性

④実現可能性・収益性 ⑤正確性・綿密性

※どんな商品・サービス・プランを展開するかを具体的に書く

3. BUSINESS PLAN

(2) TARGET <対象顧客>

※支出を求める対象は誰かを具体的に書く

※その人が特定できるくらいまで細かく設定する

3. BUSINESS PLAN

(3) SCENE <シーン>

※いつ、どこで(どのような場面で)購入・消費されるものかを書く

3. BUSINESS PLAN

(4) BENEFIT <顧客ベネフィット(便益)>

※(2)のターゲットにとって、この商品やサービス・システムがあることでどんな「よいこと・メリット」があるかを具体的に書く

3. BUSINESS PLAN

(5) PRICE/PLACE/PROMOTION

<価格・販売方法・販売促進>

※価格(コストや原価を考慮する)・販売方法や販売促進について、現時点での想定や計画を書く

4. SOCIAL IMPACT

※解決したい問題に対してどれだけインパクトを与えられたかを数値で示したものを、「〇〇をした人が△△人になる」「〇〇の数」など

5. SDGs

※該当する目標を赤丸で囲む（複数可）



この企画・この社会課題・この国の人々のために 私（私たち）ができること



「世界会議」に向けて ※テスト明け最初の GB 授業で提出

3年 組 番 名前 _____

2年生の後半から取り組んできた「みんなごと化プロジェクト」は、いよいよ集大成の「世界会議」を迎えます。

世界会議ではクラス代表（1名）の企画が提案されますが、これを「他の誰かの企画」と捉えてはいけません。この企画、この社会課題、この国の人々に対して、自分は（自分たちは）何ができるのか…それを考え、話し合うのがこの会議です。

これまで企画科で身につけた知識・力・姿勢を総動員して臨みましょう。

1. 日時

2021年10月1日（金）

1限：6組 2限：4組 3限：5組（6限と入替）

2. 会場

視聴覚教室

※当日はチャイムが鳴るまでに、授業内で指示した座席に着席しておく

3. 講師

- ・JICA（国際協力機構）京都デスク 国際協力推進員 畑中 遥 様
- ・京都外国語大学 国際貢献学部 教授 野崎 俊一 様
- ・ビジネスレザーフクトリー株式会社 代表取締役社長 原口 瑛子 様

4. 会議のスケジュール

時間	内容
10分	講師の方々の自己紹介
5分	ビジネスプランの発表（クラス代表生徒）
10分	講師の方々からの質問・コメントなど
10分	代表生徒以外から講師の方々への質問
10分	「自分（自分たち）ができること」の発表

5. 注意事項

- (1) 当日までに「自分（自分たち）ができること」のプリント（別紙）に記入しておく。
- (2) 当日はこの資料と別紙プリントを持参する。
- (3) 挨拶、うなずき、メモ、リアクションなど、社会人になったつもりで行動する。
- (4) 質問を必ずする。（会議中に発言しないことは、その場にはないことと同じです）
質問の種類：①あらかじめ考えておく質問
②当日、ビジネスプランや講師の方のお話を聞いて生まれる質問
③当日、他のメンバーの質問から派生する質問
- (5) 会議中は「自分ならどうするか・自分が貢献できることは何か・みんなでできることはないか」を常に考える。
- (6) この資料はテスト明けの授業で提出する。

6. 準備欄

講師の方のプロフィール、代表生徒の担当国や社会課題、質問等

※実際のプリントは2ページ分のスペースあり

7. 会議中メモ・会議後整理欄

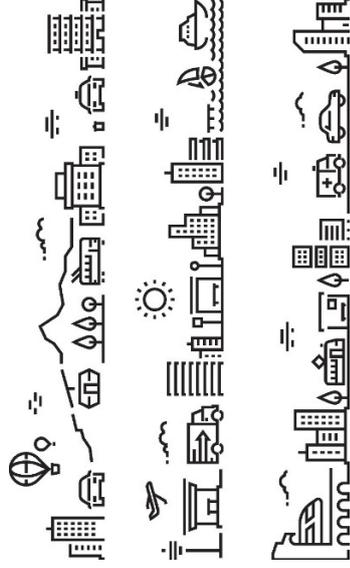
会議中はなるべく顔を上げ、話し合いに参加する。メモは最低限(覚えておきたい言葉など)にする。
会議後(当日中)にそのメモを整理し、あとから見返しても分かる状態にする。

※実際のプリントは1ページ分のスペースあり



ゼミレポ

(課題研究レポート)



京都府立京都すばる高等学校

3年 組 番 名前 _____

ゼミ名: _____ セミ

担当: _____ 先生

ゼミレポ (課題研究レポート)

担当者確認欄

記入日: _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 曜日

1. 今週の活動内容と学び

(活動内容と、そこから考えたこと・知ったこと・できたこと・できなかったこと・新たな疑問・ついたかななどを詳しく書く。箇条書きや図解も可)

2. 今後の計画

(次の授業までにすべきこと、次回の授業計画など)

3. つながり発見

(他科目とゼミの内容が関連していた、授業内容が部活動に生かされた、授業で考えたことを家で実践してみた...など「つながった」ことによる新たな発見を具体的に書く)



「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」

みんなごと化プロジェクト報告会

- 【注意】
- ①新学科完成年度にあたりみなさんの3年間の取り組み内容や成長した姿を報告する会です。
 - ②3年間の各学科取り組みで“つながった”企業、大学の関係する方が出席されます。
全てのシーンで「ポジティブな反応・あいづちを打つ・反応はあげさ」をお願いします。
 - ③学科の学びと社会との繋がり、自分自身のキャリア、将来の理想像を常に意識して聴くこと。



3年 組 番 名前

(2) 第1部 地域協働報告会の流れ

【 起業創造科会場 】(306号 企画科ゼミ長より企画科の説明)

- 時間 14:00～15:00 (60分)
- 内容 地域協働事業説明・地域コーディネーター (三木さん講話)
学科紹介
授業紹介① (企画科学校設定科目グローバルビジネス)
授業紹介② (課題研究)
私たちが創る京都の未来～未来を語る～ (起業創造科生徒)
質疑応答 (企画科の取り組みについてゲストから質問)

【 企画科会場 】(204号 起業創造科ゼミ長より起業創造科の説明)

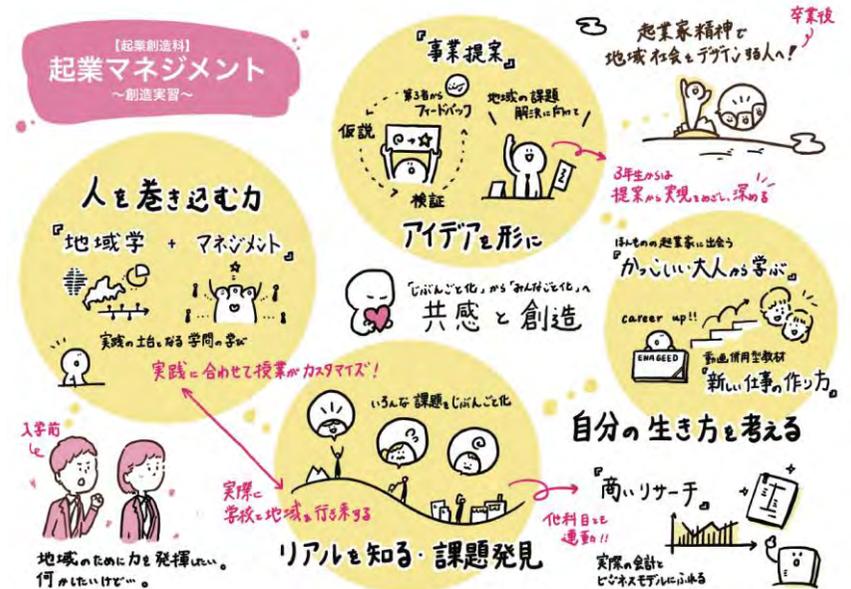
- 時間 14:00～15:00 (60分)
- 内容 学科紹介
授業紹介① (起業創造科学校設定科目起業マネジメント)
授業紹介② (課題研究)
地域協働事業説明・地域コーディネーター (三木さん講話)
私たちが創る京都の未来～未来を語る～ (企画科生徒)
質疑応答 (起業創造科の取り組みについてゲストから質問)

(3) 第2部 パネルディスカッションの流れ: 両学科共通

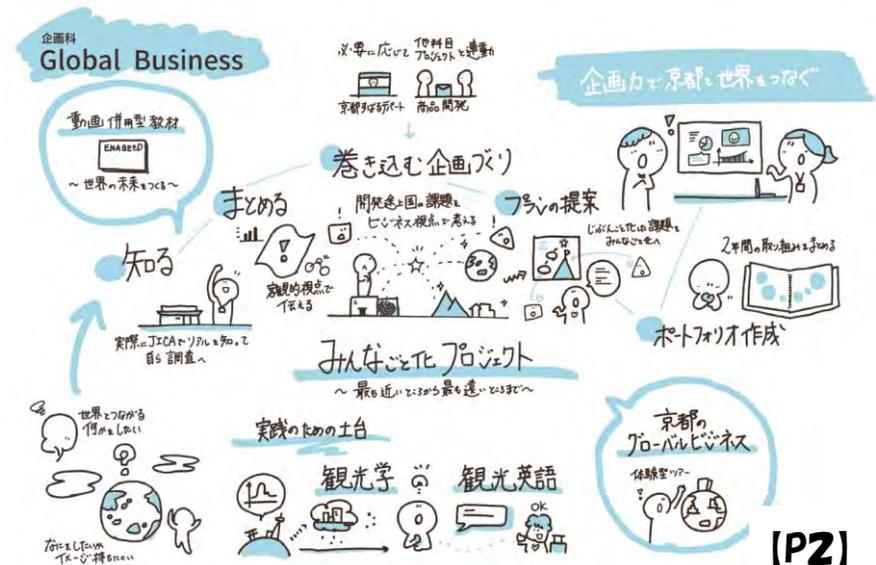
- 時間 15:15～16:05 (50分)
- 内容

自己紹介	(企業の方から)
学科コンセプトの発信	(学科長)
学科コンセプトを実社会で実践されている方	(企業)
仕事の内容 経営方針 本校との関係	
私が創りたい未来社会	(企業・学科長)
目指すべき社会の未来像の共有	
仕事のおもしろさ、やりがい	(企業)
激変する社会	(企業・学科長)
未来への挑戦	(企業)
みなさんに期待すること	(企業の方から)
生徒より (ゼミ代表よりパネルディスカッションを聞いて)	
学科長より学科生徒へのメッセージ	(学科長)

(4) 起業創造科 起業マネジメントグラフィックレコーディング



(5) 企画科 グローバルビジネスグラフィックレコーディング



(5) 第1部：地域協働報告会準備 各ゼミより1名（ゼミ長以外）発表します

私たちが創る京都の未来～未来を語る～ 前ページの各学科の学びを受けて

① 学科で学んだことを生かし、「住んでよし」「訪れてよし」の京都を創るために私（私たち）ができることは

です。

② 学科で学んだことを生かし、「働いてよし」の京都を創るために私（私たち）ができることは？

です。

学科への質問

5 第1部：地域協働報告会について（5限目）

メモ

6 第2部：パネルディスカッション（6限目）

メモ

令和元年度指定
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」
(プロフェッショナル型)

令和3年度 研究実施報告書【第3年次】

2022年3月18日発行

京都府立京都すばる高等学校

〒612-8156 京都市伏見区向島西定請120

TEL 075-621-4788 FAX 075-621-9048

<http://www.kyoto-be.ne.jp/subaru-hs/mt/>

(地域協働ロゴデザイン：三宅正太)